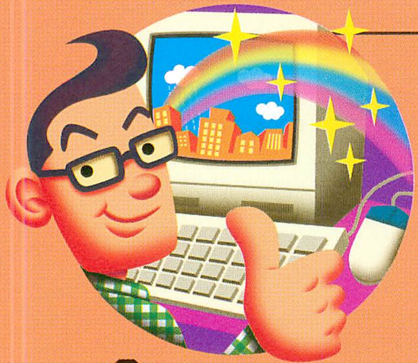


Friday

1 WEEK MASTER 5th DAY !!!



今日マスターすること TODAY'S GOAL !!!

「ちらしを作ろう(2) 実践編 地図とメインビジュアルを作る」

STEP 1 ・・(地図を作成する

STEP 2 ・・(メインビジュアルを作る

Friday
1 WEEK MASTER 5th DAY !!!

STEP 1 地図を作成する

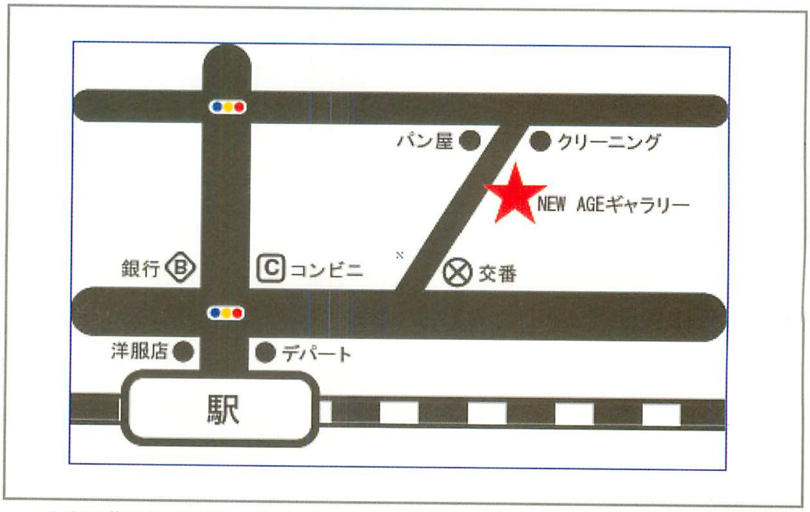
これから学習すること

今日は、ちらしに必要な地図とメインビジュアルを作成します。これはちらしの見映えを良くするためにとても重要なものですから、気合いを入れていきましょう。それに、今日はファイルのボリュームもいつもより多くなりますから、そのつもりで。

地図を作る手順

これから地図を作ります。手順が長くなりますので、全体の流れをつかんでおきましょう。

(1) 地図の枠を作る
(2) 道路を作る
(3) 線路を作る
(4) 目印のマークを作る
(5) 文字を入れる
(6) 目的地のマークを入れる
(7) 文字間隔を調整する（字詰め）



▲これから作る地図です。簡単に作れそうですが、正確さが要求されます。きっちり作りましょう。

地図の枠を作る

木曜日に練習したガイドラインを使って、地図の枠を作ってみましょう。ここでは地図の大きさを決めるための長方形を作成して、それをガイドラインに変換するやり方でガイドラインを作成します。

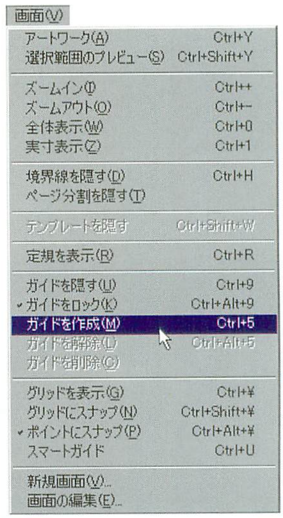
地図はとりあえずのサイズで作成しておいてかまいません。最終的には、木曜日に作成したちらしのフォーマットに持っていいって、レイアウトに合わせて位置を調整することにしましょう（もちろん最初から正確に地図の大きさが決められている場合は、そのサイズで作っておきます）。



1 「ファイル」メニューの「新規」を選びます。



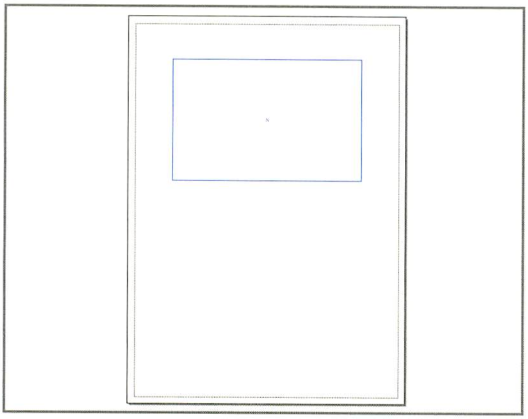
2 ツールボックスから長方形ツールを選びます。適当な位置でクリックして、数値指定で長方形を作ります。「幅」を「143mm」、「高さ」を「93mm」にしてください。



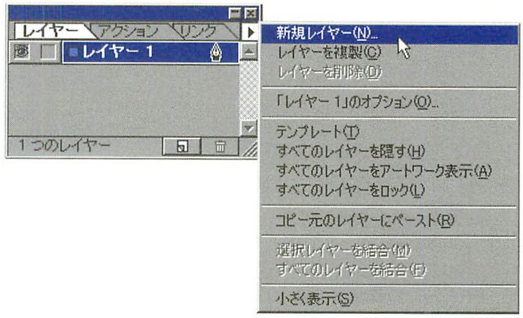
3 これをガイドラインに変換しましょう。「画面」メニューの「ガイドを作成」を選択します。

道路を作る

道路用のレイヤーを作って、道路を作成します。ペンツールで直線を作る際は、最後に選択ツールで選択解除することを忘れないように！　画面表示の大きさは、ズームツールを使うなどして状況に合わせて各自で変えながら行ってください。



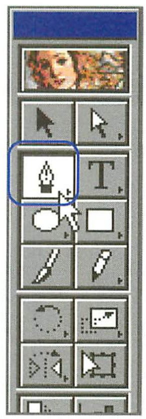
1 長方形がガイドラインに変換されましたよね。これからこの枠内に地図を作っていきます。



2 それでは道路を作ります。まず、新しいレイヤーを作ります。レイヤーパレットのパレットメニューから「新規レイヤー」を選びます。



3 名前を付けるダイアログボックスが出てきますから、「名前」を「道路」として、「OK」ボタンを押してください。

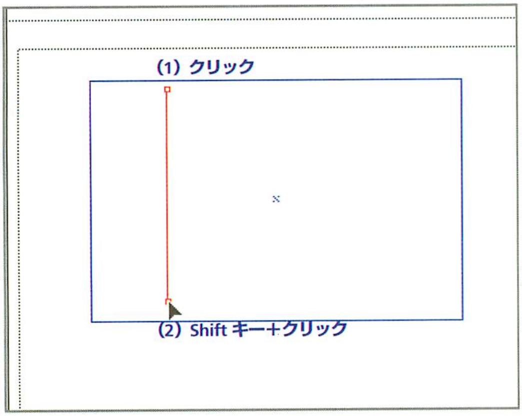


4 ツールボックスからペンツールを選びます。

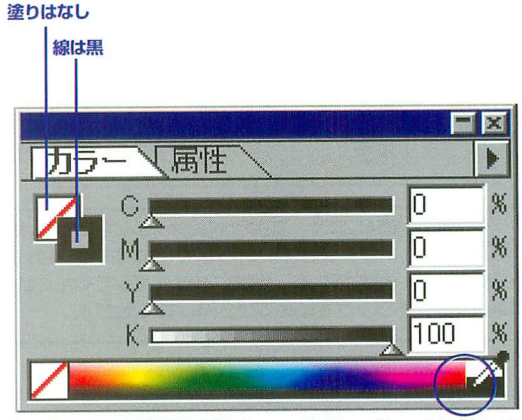
ここがポイント!!

ペンツールの直線の引き方のおさらい

ペンツールで線を引くときは、ドラッグではありませんよ。クリックしてポイントを置きながら引いてきます。最後は選択ツールにして選択解除することも忘れずに！



5 直線を引きます。垂直な線を作りたいので、Shiftキーを押しながら、2点をクリックしてください。選択ツールに戻って、どこかをクリックして選択解除します。

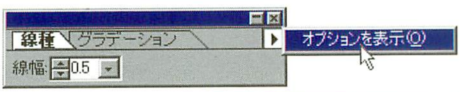


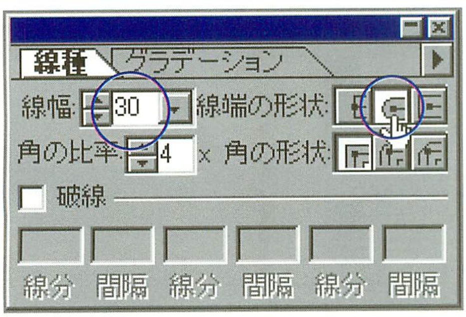
6 今引いた直線を選択して、カラーパレットで塗りを「なし」に、線を「黒」に設定します。

ヒント!!

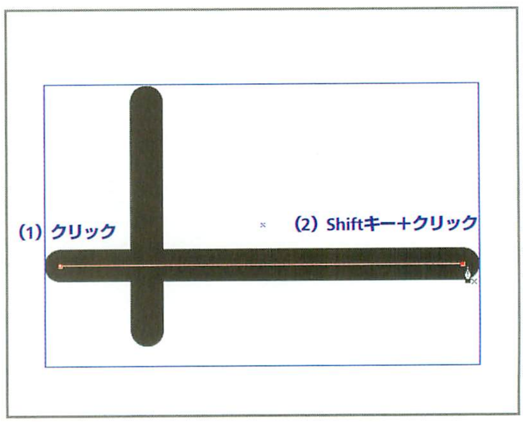
パレットオプションを表示する

「線種」パレットのオプションメニューで、オプションを表示しておきましょう。

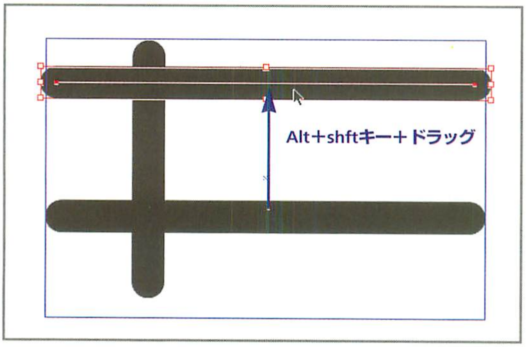




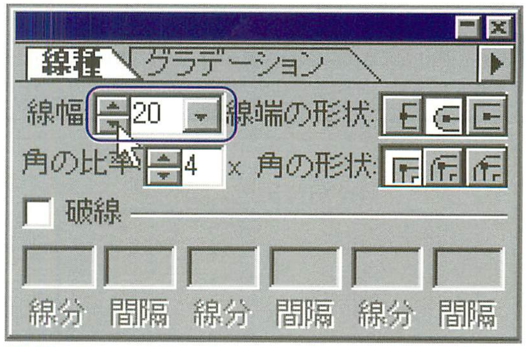
7 線種の設定を行います。線種パレットの「線幅」を「30pt」に、「線端の形状」を「丸形」にします。



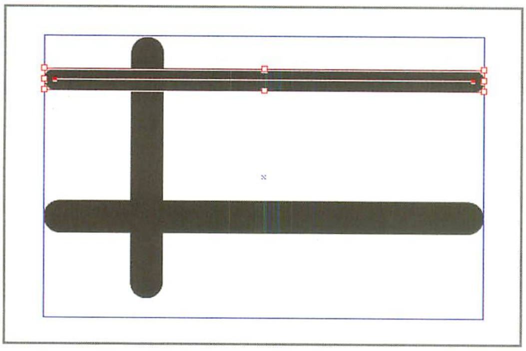
8 同様に横線もペンツールで描きます。Shiftキーを押しながら、水平の直線を作ってください。



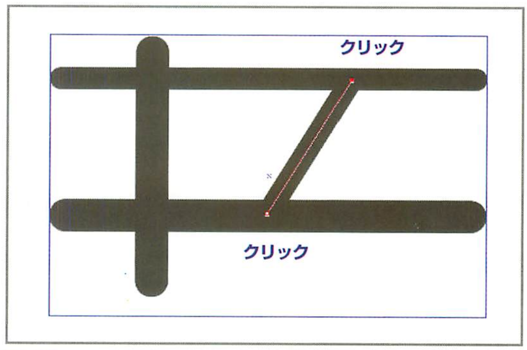
9 横線を複製します。複製は選択ツールにしてからAltキー＋ドラッグです。まっすぐ上に作りたいのでShiftキーも一緒に押して、垂直にドラッグしてください。Shiftキーはドラッグを始めてから押してください。



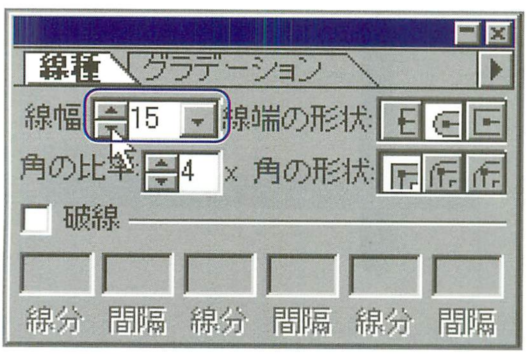
10 複製した横線は線幅を少し細くします。「線幅」を「20pt」にしてください。



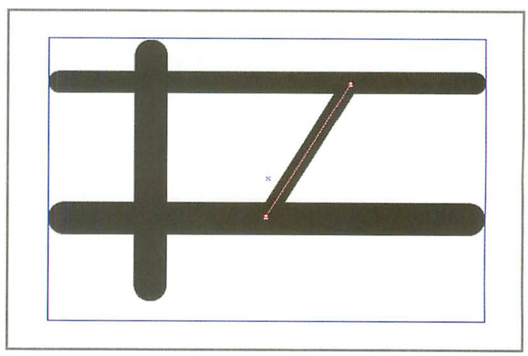
11 少し細くなりましたよね。



12 ペンツールで今度は斜めの線を描いてみましょう。



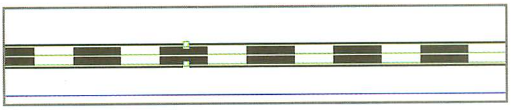
13 線幅は「15pt」にします。



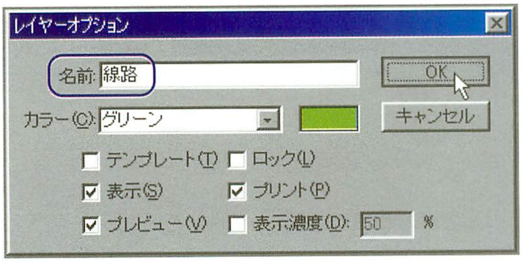
14 斜めの線の線幅が細くなりました。これで道路は完成です。

線路を作る

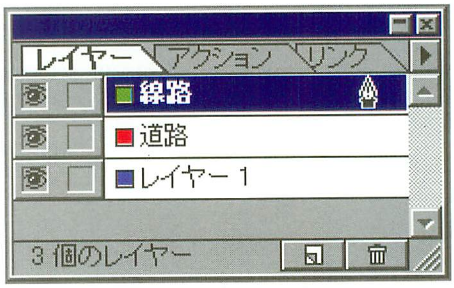
次は線路用のレイヤーを作って線路を作成しましょう。線路は黒い線の上に白い破線（点線）を重ねて作ります。ここでのポイントは、線種パレットの「線幅」と「破線」の使い方です。また、同じ位置に複製する「前面へペースト」を使う方法も覚えてください。



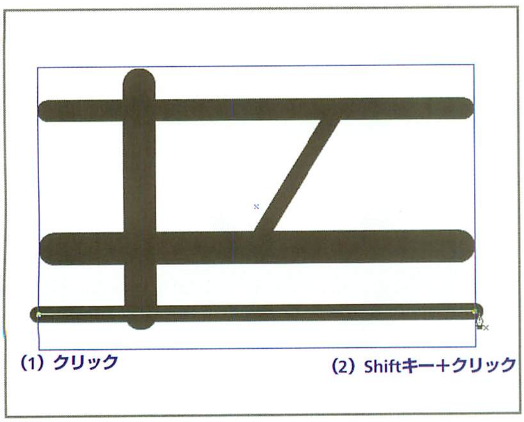
▲線路の完成図。



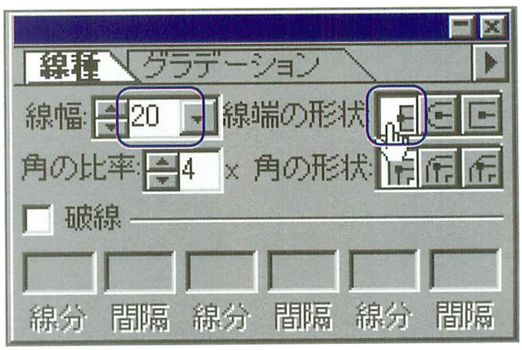
1 線路用のレイヤーを作ります。レイヤーパレットのパレットメニューで「新規レイヤー」を選び、名前を「線路」としてください。



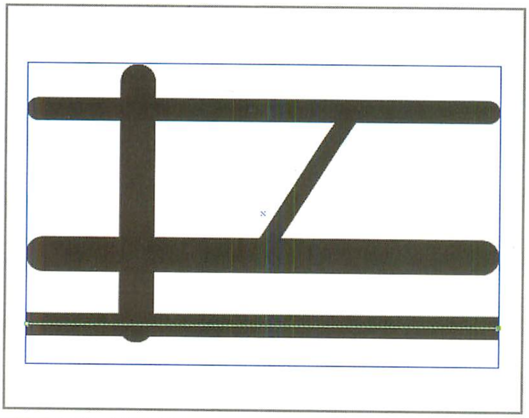
2 「線路」レイヤーができました。アクティブレイヤーになっていますよね（反転表示になっていればOK。なっていなければ「線路」レイヤーをクリック）。



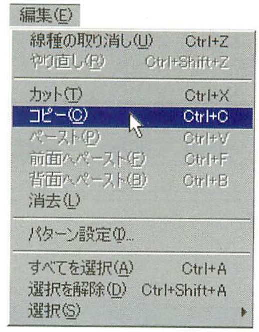
3 ツールボックスからペンツールを選びます。下の方に横線を引きます。やはり水平線を引きますので、Shiftキーを使ってください。



4 線種の設定をしましょう。選択ツールで線を選び、線種パレットで「線幅」を「20pt」にして、「先端の形状」は「バット形」を選びます。



5 先端の形状が変わりました。線幅が20ptだったということも、覚えておいてください。線路を作る場合は線幅の設定が重要ですから。



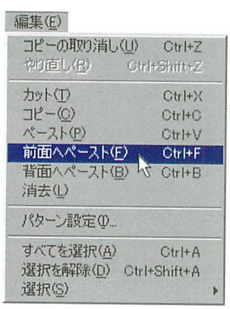
6 選択ツールで今作った直線を選び、「編集」メニューの「コピー」またはショートカットのCtrlキー＋Cでコピーします。

☞ヒント!!

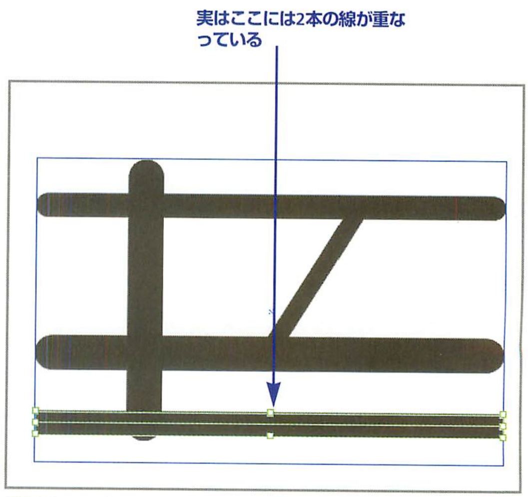
「前面へペースト」と「ペースト」の違い

Illustratorには「前面へペースト」と「背面へペースト」と「ペースト」の3種類のペーストがあります。ふつうの「ペースト」はコピーしたものを画面の中央にペーストします。「前面へペースト」と「背面へペースト」は、コピーしたものとまったく同じ位置にペーストしてくれますが、「前面へペースト」は真上へ（線路作成にはこれを使います）、「背面へペースト」は真下へペーストします（影なんか作るときに便利です）。

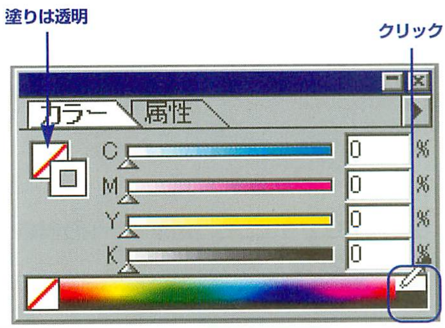
ちなみにショートカットは、「前面へペースト」がCtrlキー＋F。frontのFです。「背面へペースト」は、Ctrlキー＋B。backのBです。



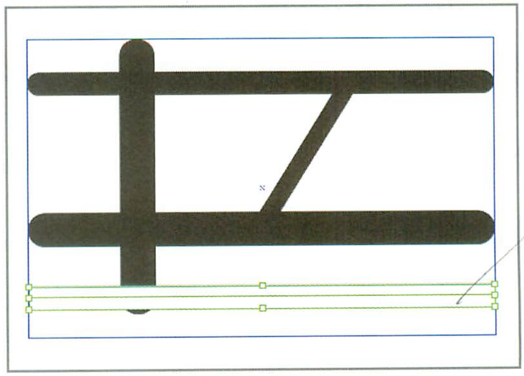
7 続いて「編集」メニューの「前面へペースト」（ショートカットはCtrlキー＋F）を実行します。



8 同じ位置に直線がペーストされました。選択されているのはペーストされた線です。



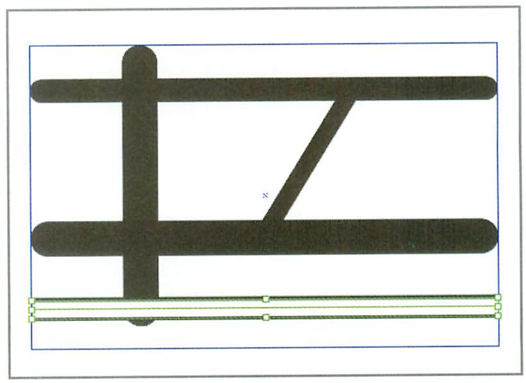
9 カラーパレットで、複製した線の塗りを「透明」、線を「白」にします。



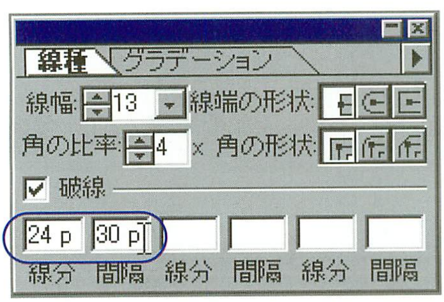
10 複製された線の色が白になりました。最初に描いた線は、この白い線の下にあります。



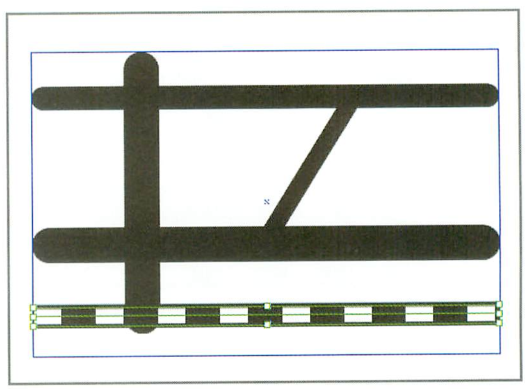
11 線種パレットで「線幅」を「13pt」にします。



12 白い線が細くなって、下にある黒い線がちょっと見えてきました。



13 線種パレットの「破線」にチェックを入れます。破線の数値入力ボックスが使えるようになりますので、「線分」に「24pt」、「間隔」に「30pt」と入力します。



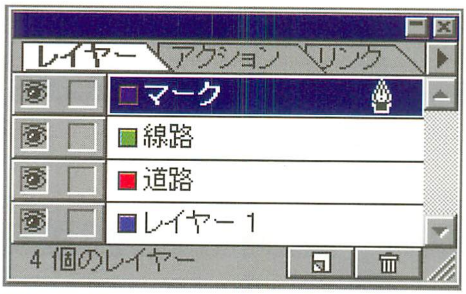
14 これで白い線が破線になりました。これが線路の作り方です。線幅や破線の間隔などを変えることで、さまざまな線路パターンを作ることができます。

目印のマークを作る

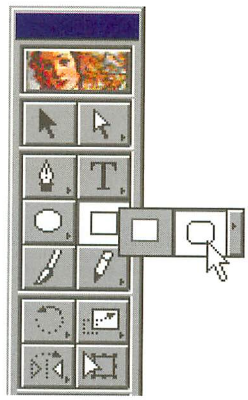
道路と線路ができたので、これに目印のマークを入れていきましょう。マーク用のレイヤーを作るところから始めます。

交番のマークを作る

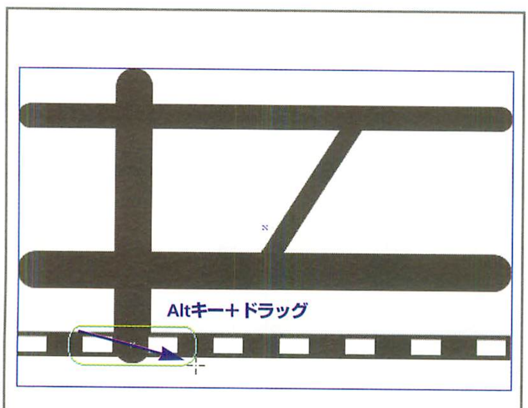
正円と直線で交番のマークを作ってみましょう。ここでのポイントは回転ツールの使い方です。



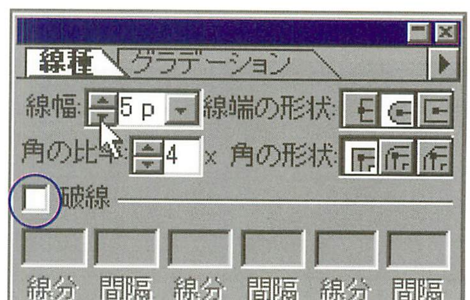
1 マーク用のレイヤーを用意してください。もう新しいレイヤーの作り方、名前の付け方はわかりますよね。



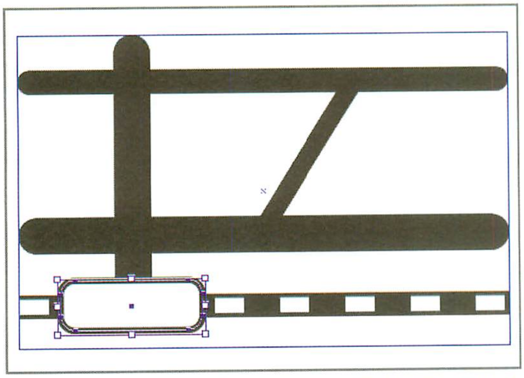
2 最初に駅を作ります。ツールボックスから角丸長方形ツールを選びます。



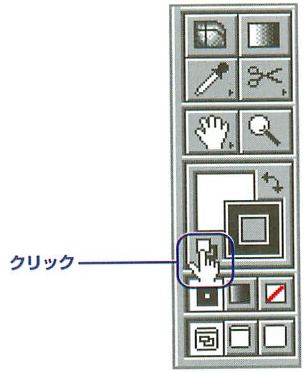
3 中心から描いた方が、線路の中央に来ますよね。Altキーを押しながらドラッグして、中心から角丸長方形を作成してください。これが駅になります。



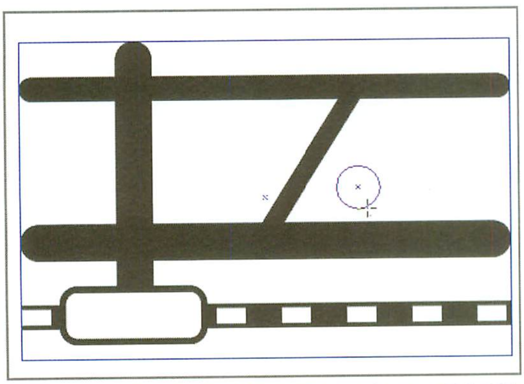
4 「破線」のチェックを外して、「線幅」を「5pt」にします



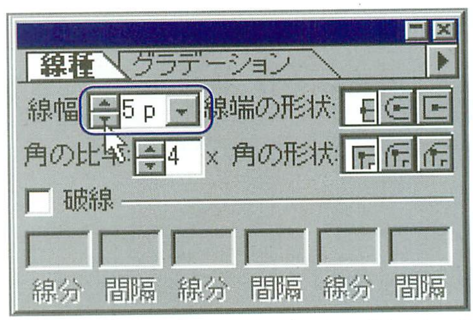
5 駅ができました。駅が選択されてる状態で、塗りの指定をしましょう。



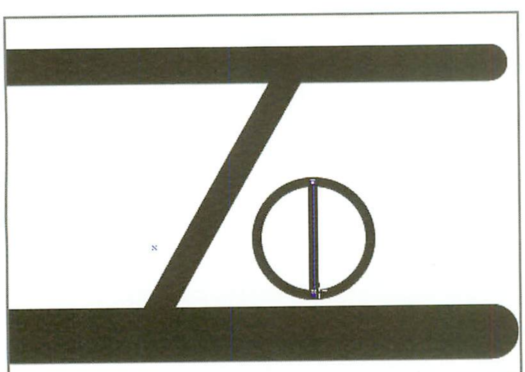
6 塗りは「白」、線は「黒」にしてください。なっていない人は、ツールボックス下の「初期設定の塗りと線」ボタン（16ページ参照）をクリックすると、簡単に設定することができます。



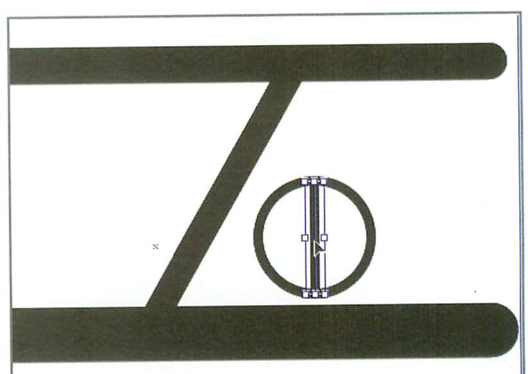
7 これから交番のマークを作ります。空いているところに楕円形ツールで正円を作成してください。大きさは後ほど調整しますので、適当でかまいません。



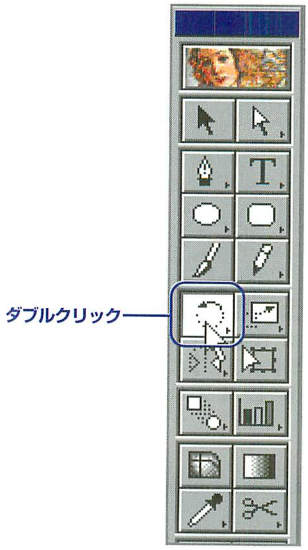
8 正円の輪郭は、線幅を「5pt」にしておきましょう。



9 ペンツールで正円の中央に縦の線を作ります。まっすぐ縦の線ですから、Shiftキーを使って垂直線を引いてください。選択ツールに持ち替えて選択を解除します。



10 次に正円の中に横の線を作ります。ペンツールで描いてもいいのですが、ここでは回転ツールを使う方法を紹介します。選択ツールで直線を選んでおいてください。



11 直線が選択されている状態で、回転ツールを使って90度回転してコピーしましょう。ツールボックスの回転ツールをダブルクリックしてください。

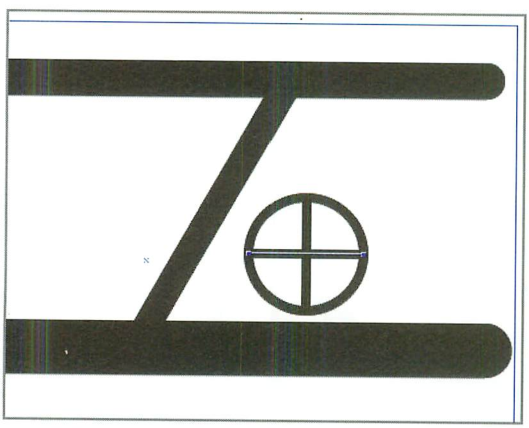
☞ヒント!!

回転ツールの使用上の注意

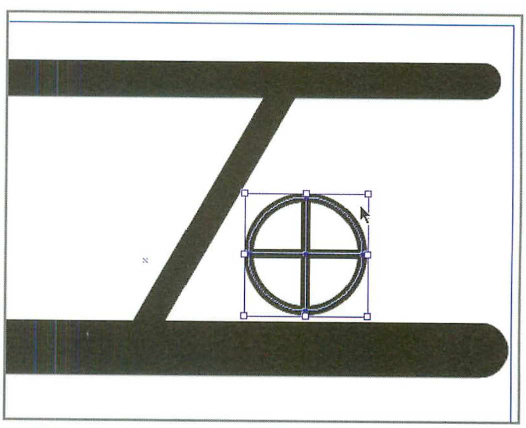
回転ダイアログボックスで「OK」ボタンを押すと、オリジナルの線が回転してしまいます。つまり、縦の直線がなくなってしまうのです。ここでは横線も追加したいので「コピー」ボタンを使います。他の変形ツール（拡大・縮小、シアー、リフレクト）も同様にコピーできます。



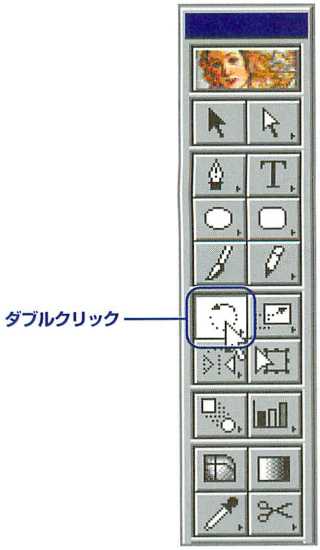
12 回転の角度を指定するダイアログボックスが出てきます。「角度」に「90」と入力してください。そして「コピー」ボタンをクリックします。



13 「コピー」ボタンを押すと、縦の直線とは別に、90度回転した線が複製されるのです。回転の中心点は線の中心です。



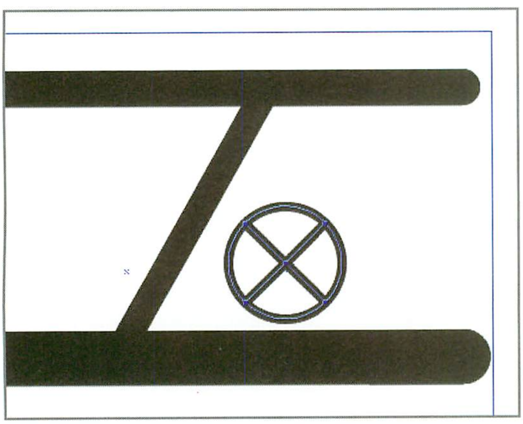
14 これでマーク全体を45度回転しましょう。選択ツールでマーク全体をドラッグして選んでください。



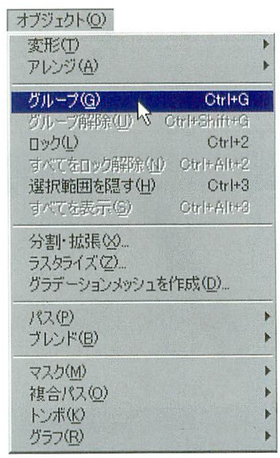
15 もう一度、回転ツールをダブルクリックします。



16 「角度」のボックスに「45」と入力して、今度は「OK」ボタンを押してください。



17 これで交番マークができあがりました。円と線がばらばらにならないように、グループにしておきましょう。マーク全体が選択されている状態で、「グループ」を実行します。

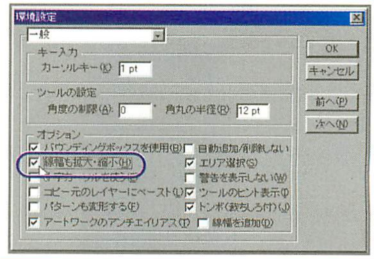


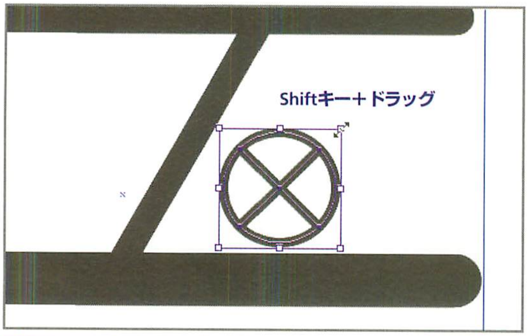
18 「グループ」は「オブジェクト」メニューに用意されていますが、よく使いますからぜひショートカットを使ってください。ショートカットはCtrlキー＋G（もちろんGroupのG）です。

☞ヒント!!

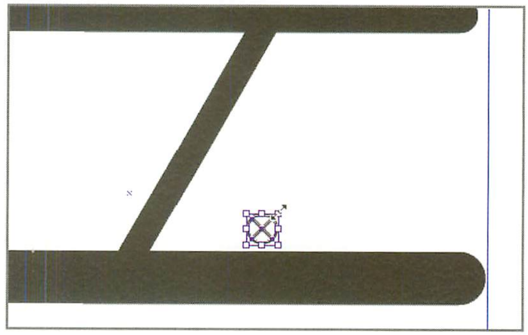
線幅も拡大・縮小

Illustratorの初期設定では、図形を拡大・縮小しても線幅は一定のまま変わらないようになっています。でも、小さな図形の線が太いままだったり、大きな図形の線が細すぎたりすると変ですから、拡大・縮小した後でいちいち線幅を設定し直さなければなりません。「ファイル」メニューの「環境設定」の「一般」で「線幅も拡大・縮小」をチェックしておくと、図形を縮小すれば線幅も細くなり、拡大すれば線幅も太くなります。本書でも、線幅も一緒に拡大・縮小されるように設定して作業しています。





19 交番マークの大きさはどうですか？　駅前に配置したいので、ちょっと小さくしましょう。選択ツールで交番マークを選び、ハンドルを内側へドラッグして縮小します。形が変わってしまわないように、Shiftキーを押しながらドラッグしてください。

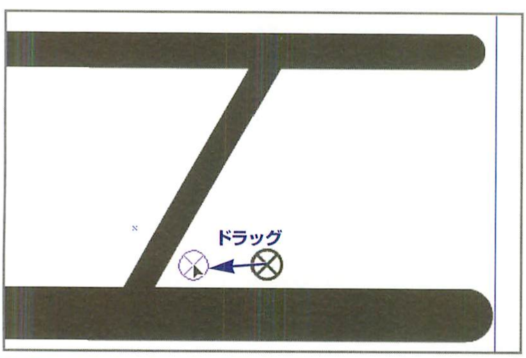


20 ちゃんと小さくなりましたか？　Shiftキーを最後までちゃんと押していないと、細長いマークになったりします。これくらいの大きさにしてください。

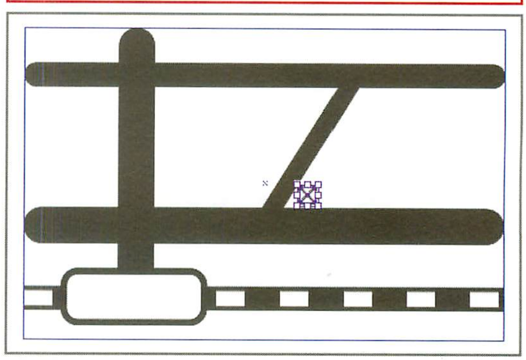
☞ヒント!!

画面表示を切り換えるショートカット

画面表示を拡大するときは、ズームツールやメニューを使う以外に、Ctrlキー＋「＋」のショートカットもあります。縮小するときはCtrlキー＋「－」も使うと便利ですよ。状況や好みに合わせて、使ってください。



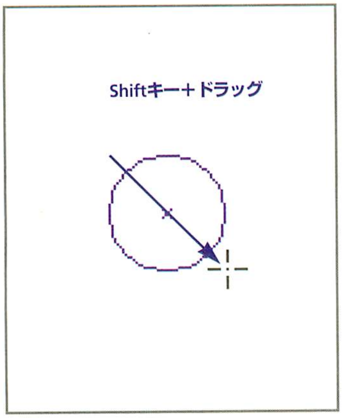
21 選択ツールで図の位置にドラッグして持ってきます。ドラッグするときはハンドル以外の部分をつかんでくださいね。ハンドルをドラッグするとマークの大きさが変わってしまいますから。



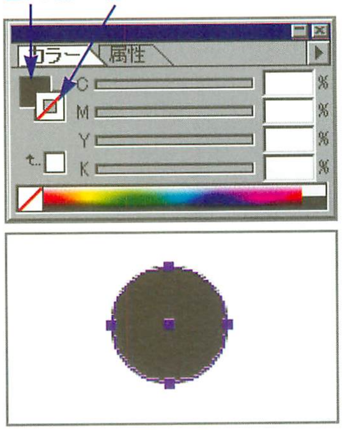
22 地図全体を見てみましょう。こんな感じになっています。必要なら、交番マークの大きさや位置を再調整してください。

信号のマークを作る

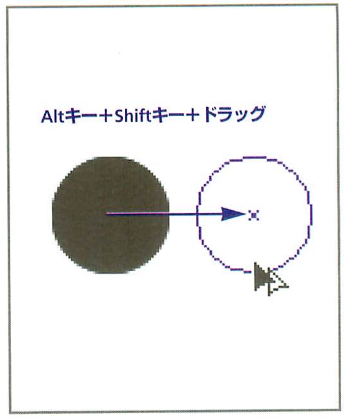
今度は信号を作ってみます。「変形の繰り返し」を使って円を増やすところがポイントです。最初は作業しやすい地図の外側で作ってください。あとから正しい場所に持っていきます。



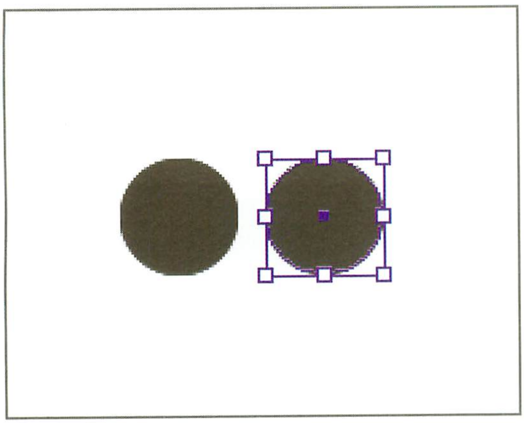
1 ツールボックスから楕円形ツールを選び、正円を描きます。正円はShiftキーを押しながらドラッグです。



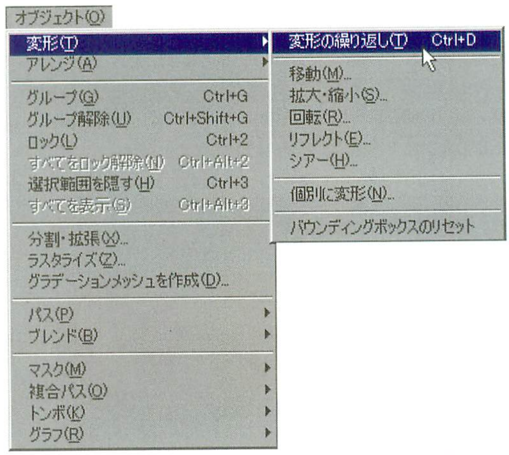
2 塗りは「黒」、線は「なし」にします。



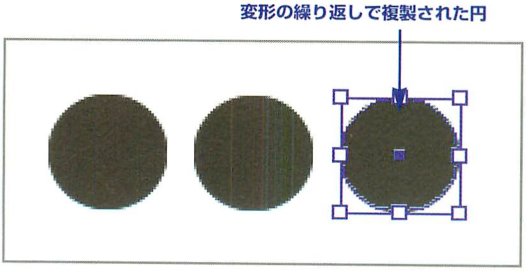
3 選択ツールに持ち替えて、右側に複製します。もちろんAlt＋Shiftキー＋ドラッグのショートカットを使ってくださいね。



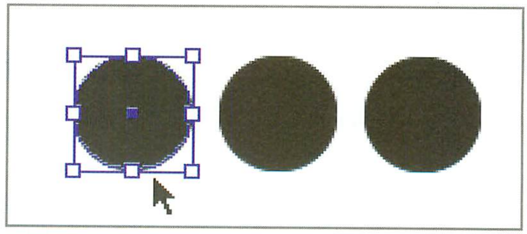
4 正円が複製されました。この後すぐに次のステップに進みますので、どこかをクリックしたり、選択解除したりしないでください!!



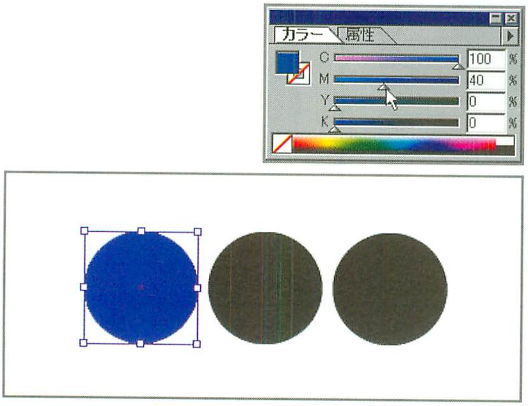
5 「オブジェクト」メニューの「変形」から「変形の繰り返し」を実行します。



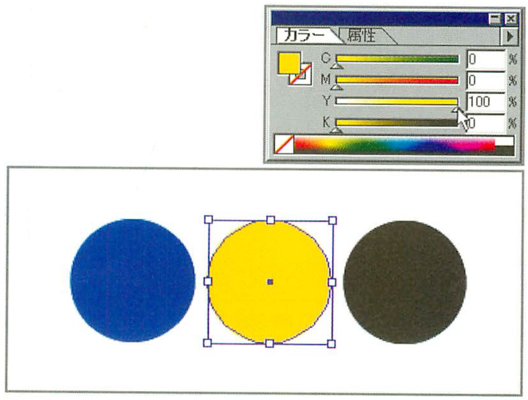
6 これで、右方向に複製する操作を繰り返してくれるので、3つ目の円ができあがるのです。



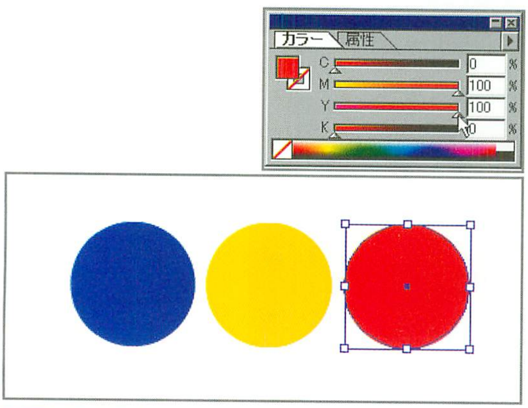
7 それでは左側の円を選択して、色を変えてみましょう。



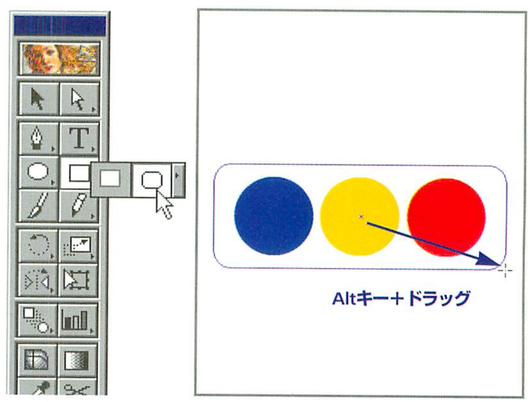
8 カラーパレットで塗りを青色にします。「塗り」アイコンが選ばれていることを確認してくださいね。ここでは、C「**100**」、M「**40**」にしました。



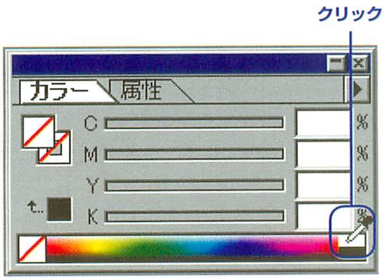
9 真ん中の円はY「**100**」の黄色にします。



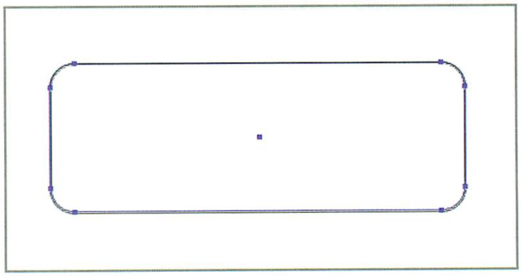
10 右側の円は、M「**100**」、Y「**100**」にします。



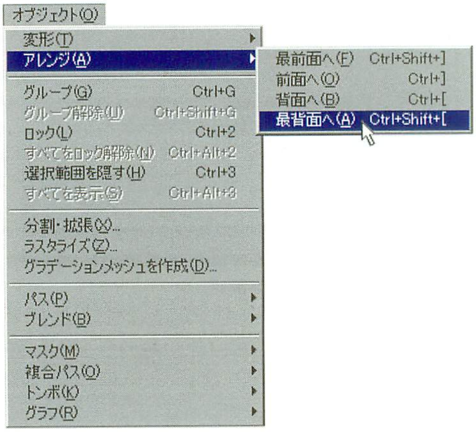
11 ツールボックスから角丸長方形ツールを選びます。黄色の円の中心から外側にドラッグします。中心から描くことで、3つがちゃんと中央に収まる角丸長方形を作ることができます。



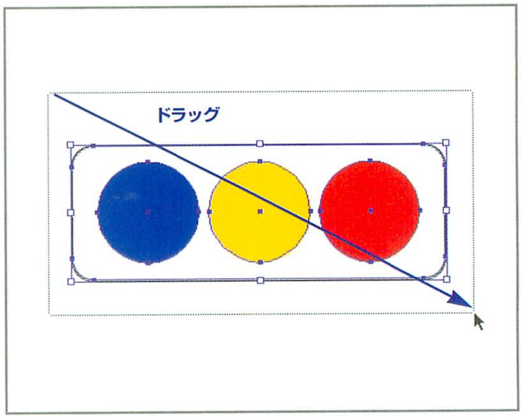
12 角丸長方形の塗の色を白にします。線は透明にしておきます。



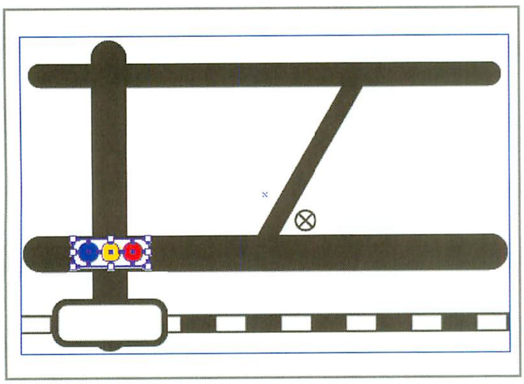
13 塗りを白にしたので、背面にある3つの円が隠れてしまいました。



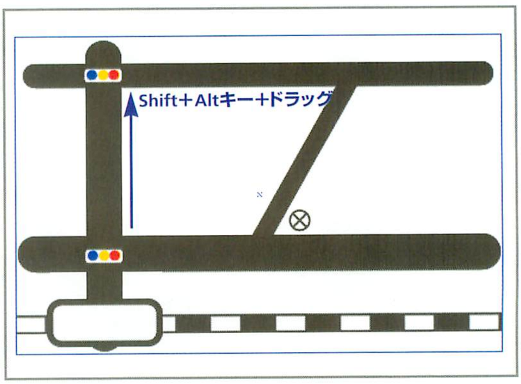
14 「オブジェクト」メニューの「アレンジ」から「最背面へ」を選んで、角丸長方形を円の後ろに行かせます。



15 選択ツールで円と角丸長方形の両方を選択し、「オブジェクト」メニューの「グループ」（Ctrlキー＋G）でひとつにまとめておきます。



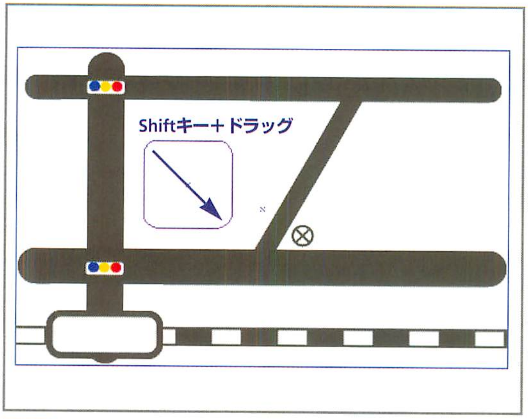
16 地図上に信号を配置し、必要ならハンドルをドラッグしてサイズを調整します。



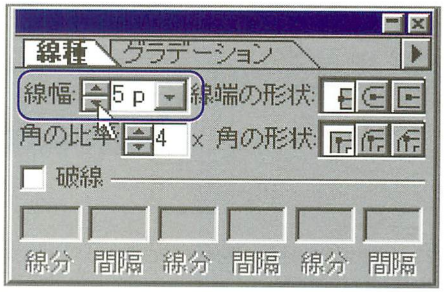
17 もう1カ所にも信号を配置しましょう。Altキー＋ドラッグですよ。真上に動かしたいので、Shiftキーも一緒に押しておきましょう。

その他のマークを作る

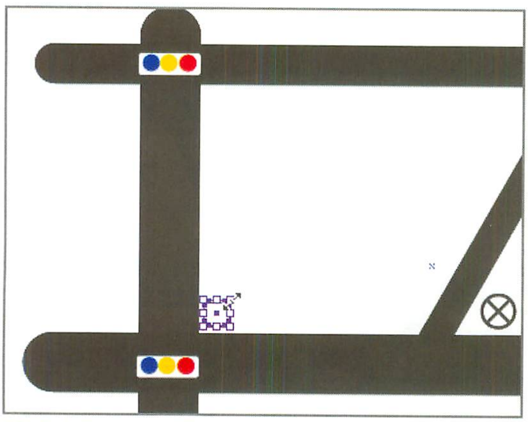
ほかのマークも、図に従って作ってください。複製や水平移動のショートカットを適時使って練習しましょう。



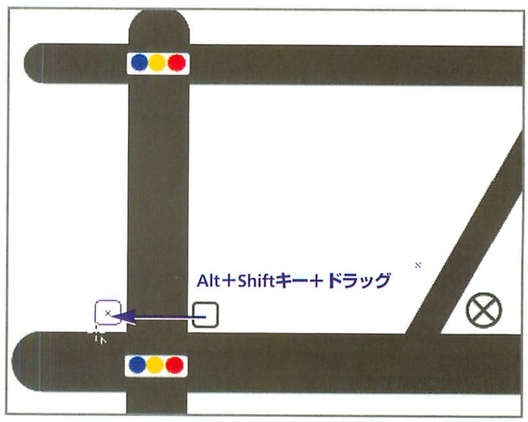
1 角丸長方形ツールで、Shiftキーを押しながら適当にドラッグして、角丸の正方形を作ります。色は塗りを白、線を黒にしてください（初期設定の塗りと線アイコンをクリックするのが簡単ですね）。



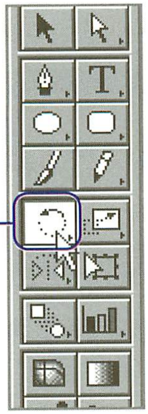
2 「線幅」は「5pt」にします。



3 選択ツールに切り替えて、サイズを調整します。形を変えないようにShiftキーを押しながらハンドルをドラッグしてください。



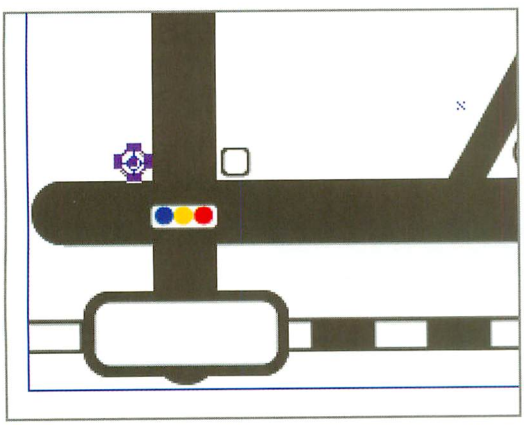
4 もう1カ所に複製します。AltキーとShiftキーを押しながら、ハンドル以外のところをつかんでドラッグします。



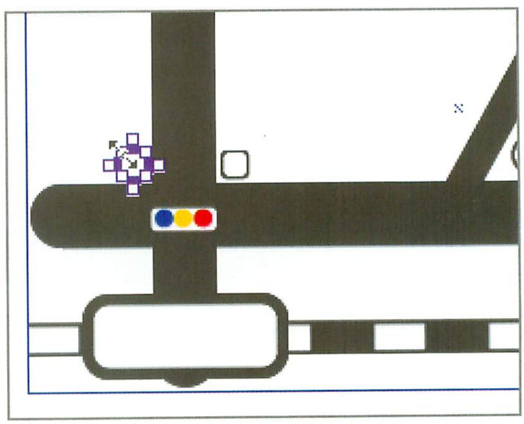
5 複製した角丸正方形を45度回転させます。複製した角丸正方形が選択されている状態で、ツールボックスの回転ツールをダブルクリックします。



6 「角度」に「45」と入れて、「OK」ボタンを押してください。



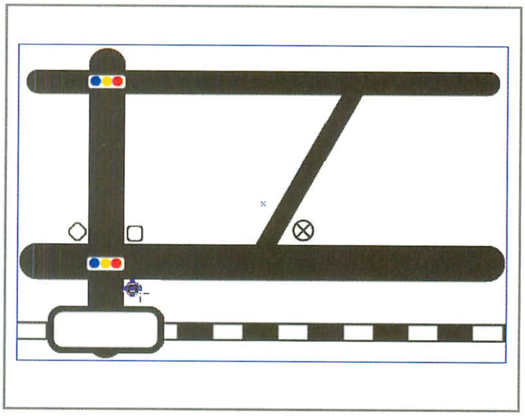
7 選択していた角丸正方形が45度回転して、ひし形のマークになりました。



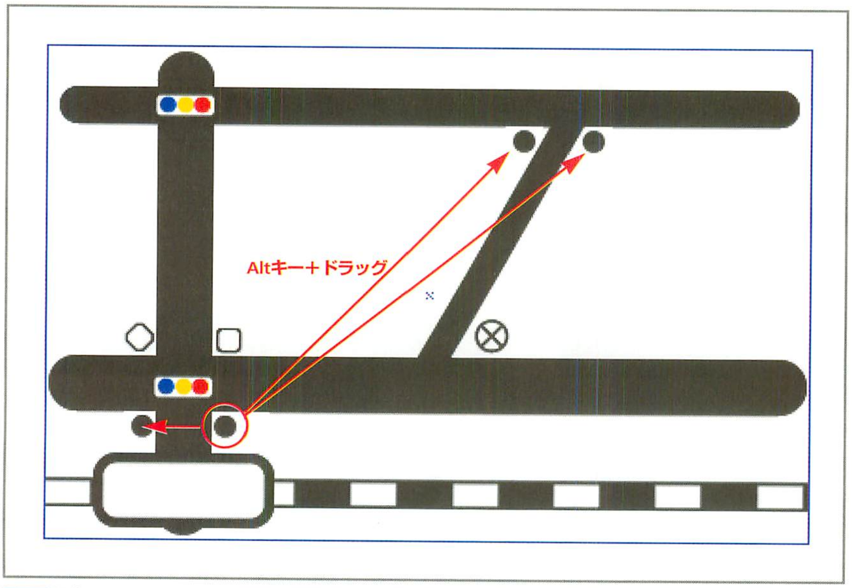
8 必要なら、選択ツールに持ち替えて、位置やサイズの調整を行ってください。



9 また、線幅の調整が必要なら、「線幅」の数値を変更してください。



10 最後は黒い正円を数個作って、これでマーク関係は終了にします。



11 最初の黒い正円をAltキー＋ドラッグで複製して、図の位置に配置してください。

文字を入れる

目印のマークに、お店の名前などを入力します。

数カ所に文字を配置しますが、いちいち文字ツールでクリックしながら入力するのでは位置がばらばらになってしまいます。もちろんあとから整列させることはできますが、効率的ではありません。

そこで今回は、実際によく利用する方法を紹介します。まず、最初に1つだけお店の名前などを入力して、位置を整え、文字のサイズやフォントなどの設定をしてしまいます。あとは、それを複製していきます。もちろん真横に複製するときはShiftキーを押しながら複製します。こうやって、少しでも水平、垂直のラインを同じにしておけば、全体的にきちんとした印象になります。あとは文字だけを置き換えていけばいいのです。

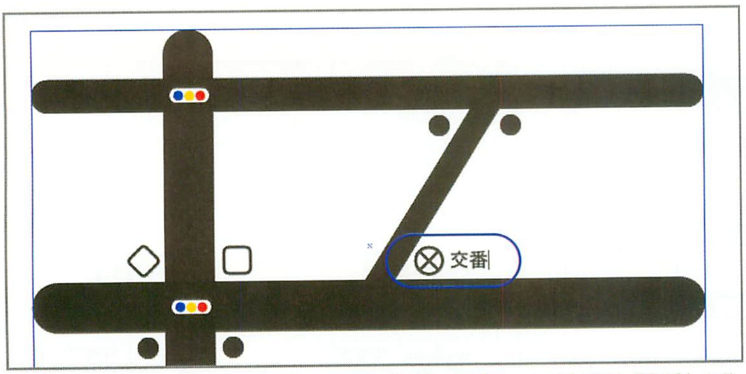
まず、文字用のレイヤーを作るところから始めます。



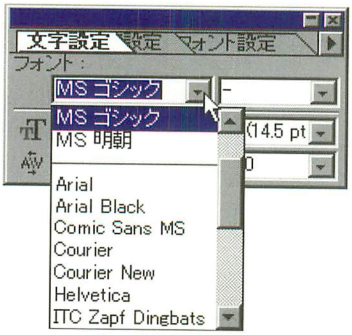
1 文字用のレイヤーを作成して、「名前」を「文字」としておきます。



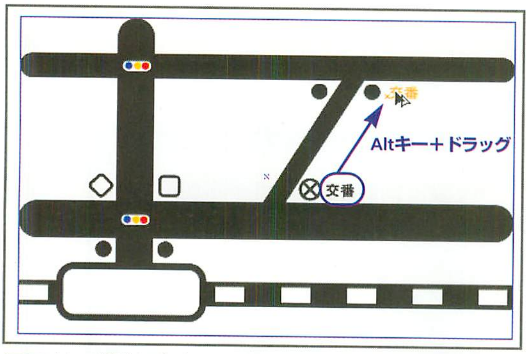
2 「文字」レイヤーがアクティブになっているのを確認してください。他のレイヤーをロックしておきましょう。



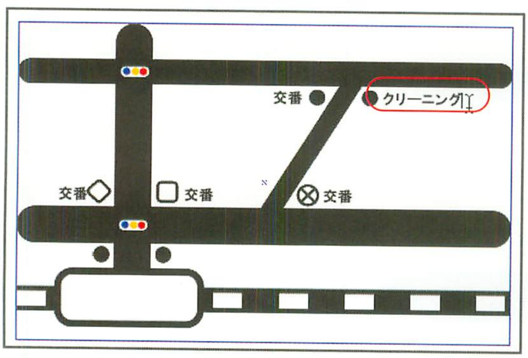
3 ツールボックスからテキストツールを選び、交番マークの右側に「交番」と入力します。



4 選択ツールで文字を選択して、文字設定パレットでサイズやフォントを変更します。ここでは「MSゴシック」の「12pt」ですが、各自で適当なものを選んでください。



5 他の部分の文字を作成します。ここでは「交番」と同じフォントやサイズの文字にしたいので、「交番」の文字列を複製して、あとから文字を修正します。「交番」の文字列を選択ツールでAltキーを押しながらドラッグします。

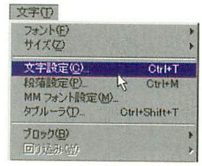


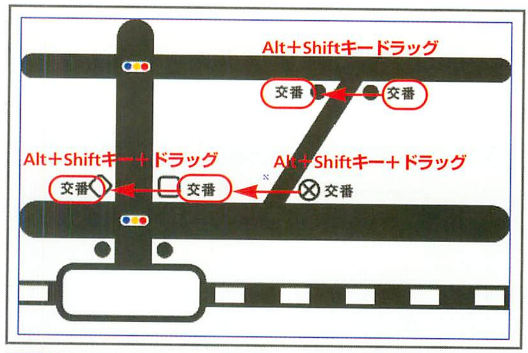
7 ツールボックスから文字ツールを選び、右側の「交番」の文字列をドラッグして選択し、「クリーニング」と置き換えます。

☞ヒント!!

文字設定パレットの表示

文字設定パレットが表示されていないときは、「文字」メニューの「文字設定」を選択して表示させます。ショートカットはCtrl キー＋T。textのTです。



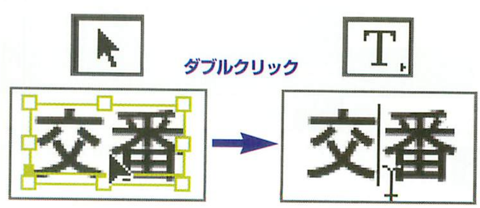


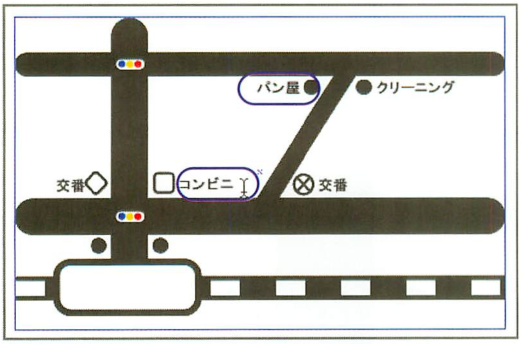
6 記号のある部分、全部で4カ所に「交番」を複製をしてください。

☞新機能!!

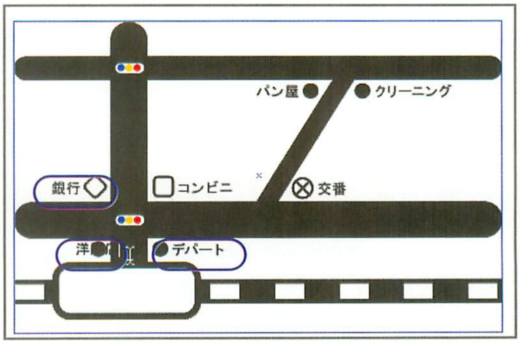
自動的に文字ツールに切り替える方法

入力してある文字を文字ツールで選択する場合、いちいちツールボックスで文字ツールに切り替えるのは面倒くさいですよね。選択ツールで文字をダブルクリックすると、自動的に文字ツールに切り替えることができます。

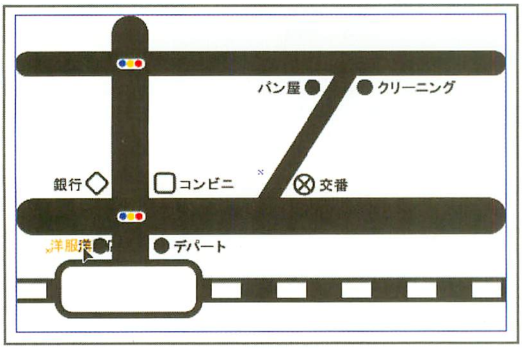




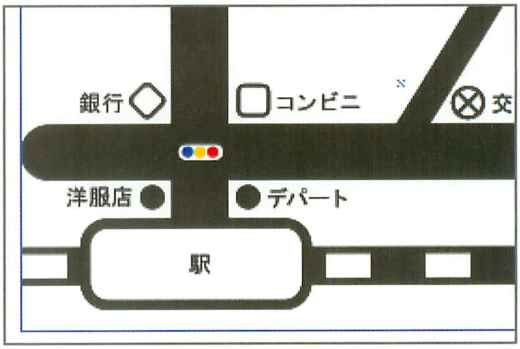
8 他の部分も文字を入力し直してください。



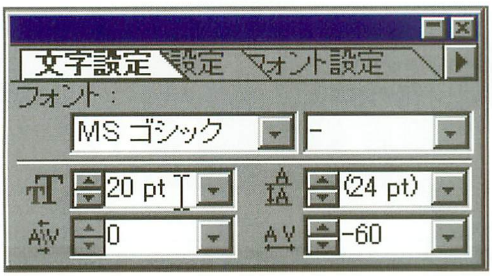
9 余裕のある人は駅の側の●部分も変更してください。文字を複製するときは、近くのものを複製してかまいません。ここでは、「コンビニ」という文字列をAltキー+ドラッグするのが速いですよね。



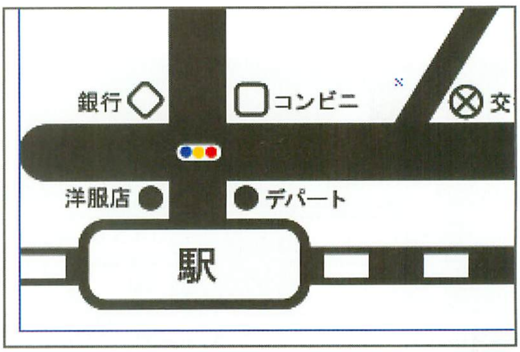
10 文字を入れ終わったら、選択ツールで文字の位置を調整しておきましょう。



11 最後に角丸長方形の中央に「駅」と入力します。



12 「駅」の文字を選択し、「駅」のフォントやサイズを変更して、目立つようにしておきましょう。ここではフォントを「MSゴシック」、サイズを「22pt」にしましたが、各自で自由に設定してください。

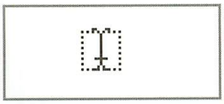


13 「駅」という文字が大きくなりました。角丸長方形の中央に来るように、選択ツールで位置を調整してください。

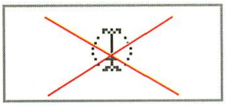
☞ヒント!!

図形に文字を入力する

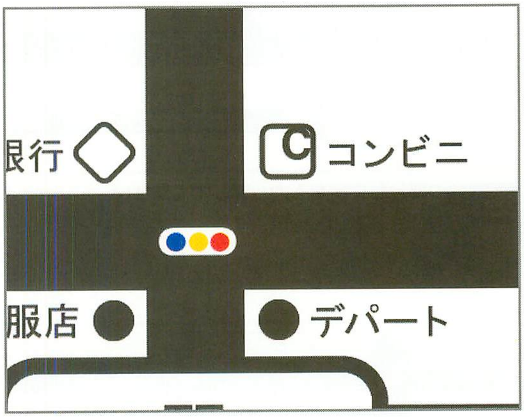
図形の内側に文字を入力するときは、文字ツールのポインタに注目してください。図形の枠の近くになると、エリア内文字ツールのポインタになってしまいます。その状態でクリックして文字を入力すると、図形の中に文字が収められてしまい、中の文字を自由に編集できなくなります。ここでは図形とは別個に文字を入力したいので、ポインタに注意しながら操作してください。



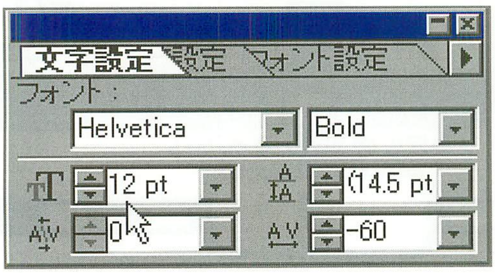
▲通常の文字ツールのポインタ。



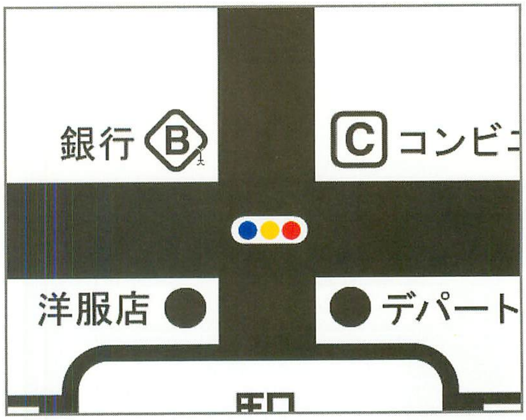
▲枠に近付けると、エリア内文字ツールに自動的に変わってしまいます。



14 マークに追加の文字を入れます。コンビニのマークの中央には「C」と入力します。



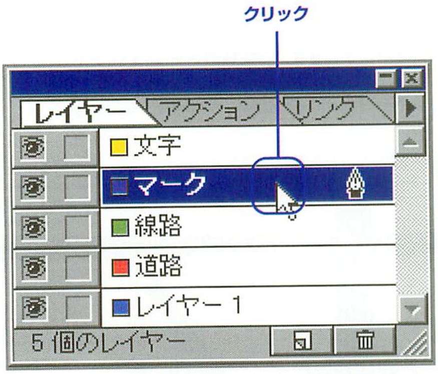
15「C」のフォントやサイズを適当に変更してください。ここでは「Helvetica」の「Bold」（ヘルベチカ・ボールド）の「12pt」にしています。



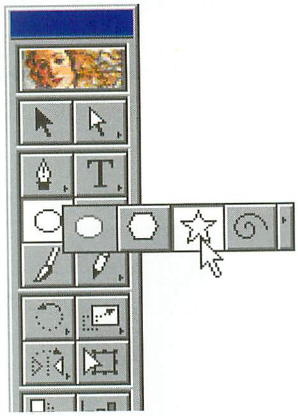
16 銀行のひし形のマークにも「B」という文字を入れましょう。コンビニの「C」という文字を複製して「B」に置き換えると楽ですよ。必要ならフォントサイズなどを調整してください。

目的地のマークを入れる

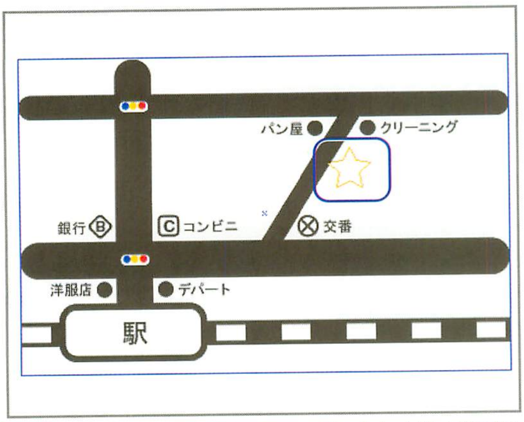
いよいよ地図作成の最終段階は、目的地のマークと名称を入れて完成させます。まだ保存をしていない人は、適当な名前でかまいませんので保存をしておきましょう。明日以降もこの地図を使いますので、必ず保存しておいてくださいね。



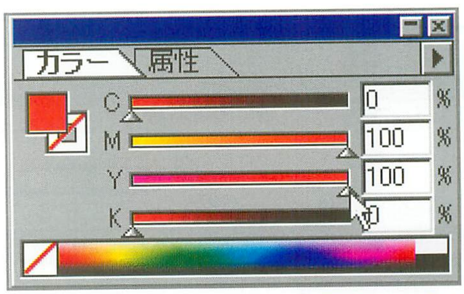
1 目的地の目印は「マーク」レイヤーに作ります。レイヤーパレットで「マーク」レイヤーをクリックしてアクティブレイヤーにします。



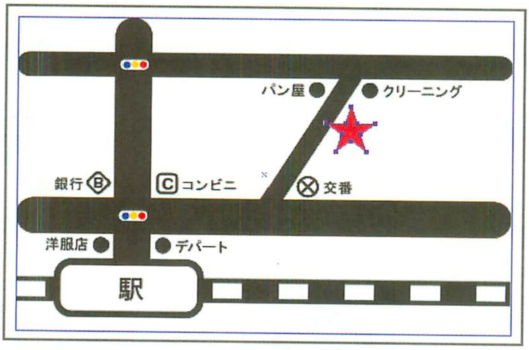
2 目印には星を使いましょう。ツールボックスからスターツールを選びます。



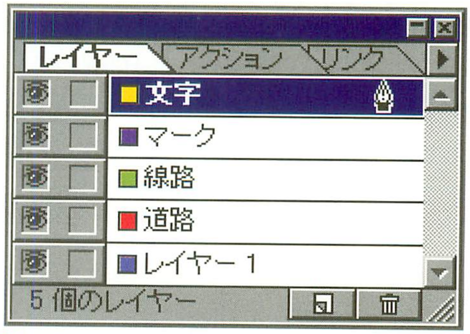
3 ドラッグして星を描きます。星の作り方は水曜日にも練習しましたよね。



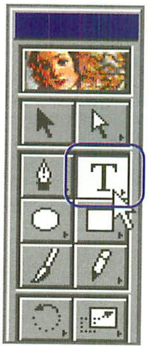
4 星を赤にします。カラーパレットで「M」と「Y」をそれぞれ「100%」にしてください（金赤と呼ばれる色です）。



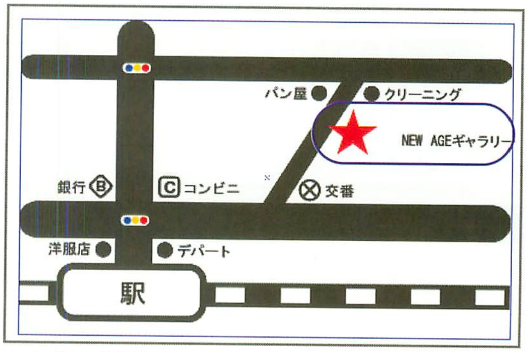
5 赤い星ができあがりました。必要ならサイズや位置の調整を行ってください。



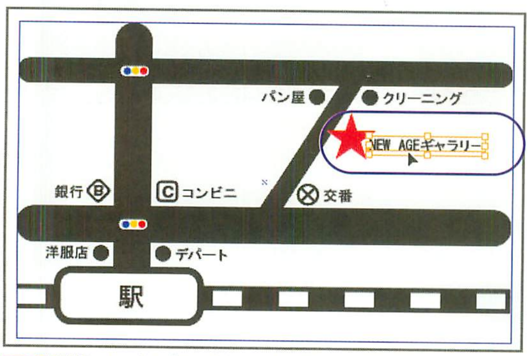
6 「文字」レイヤーに戻って、目的地の名称などを入力します。「文字」レイヤーをアクティブにしてください。



7 ツールボックスからテキストツールを選択します。



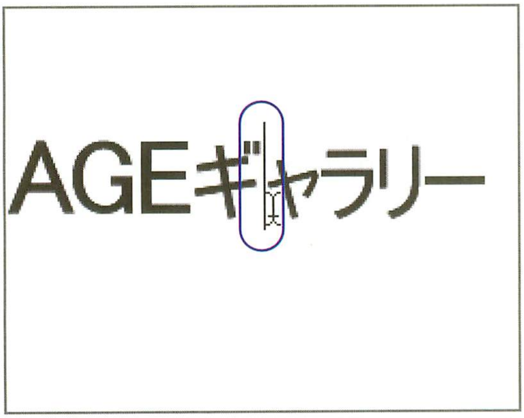
8 星の右側をクリックして文字を入力します。ここでは「NEW AGEギャラリー」と入力しましたが、適当に変えていただいて結構です。



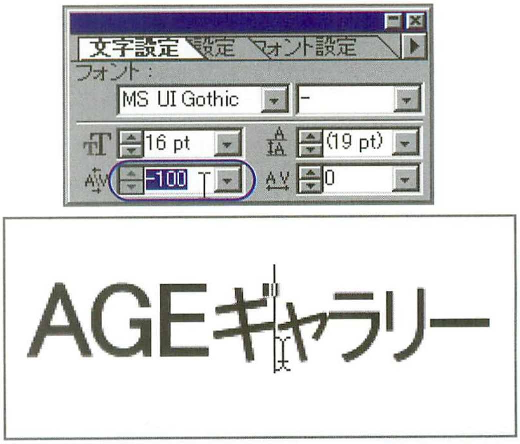
9 選択ツールに切り替えて位置の調整を行います。

文字間隔を調整する（字詰め）

フォントにもよりますが、ひらがなやカタカナは字間が広くて読みにくい場合があります。Illustratorでは、単語全体、または部分的に文字の間隔を変更することができます。



1 もし部分的に文字間隔を調整したいところがあれば、そこを文字ツールでクリックしてください。キャレットが点滅します。

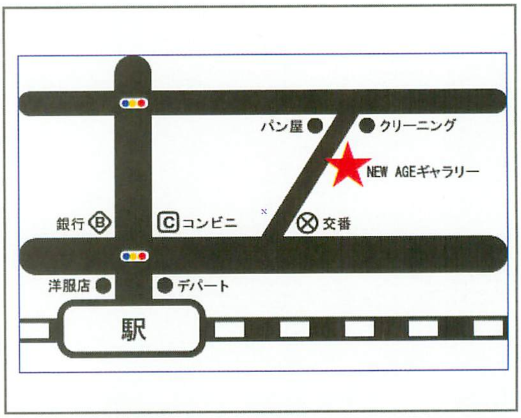


2 文字設定パレットの「カーニング」の数値入力ボックスで、マイナスを付けて数値を入力すると、文字間隔が狭くなります。

☞ヒント!!

文字間隔の設定はショートカットで！

文字間隔を調整するときは、文字間隔の変化を見て確かめながら作業するとわかりやすいので、文字パレットよりショートカットの方が便利です。文字間隔を詰めるショートカットはCtrl＋Shiftキー＋「[」、広げるのはCtrl＋Shiftキー＋「]」です。ちなみにQuarkXPressとも同じですから、両方のソフトを使っている人は、絶対に覚えるべきですよ。本当に便利ですから。



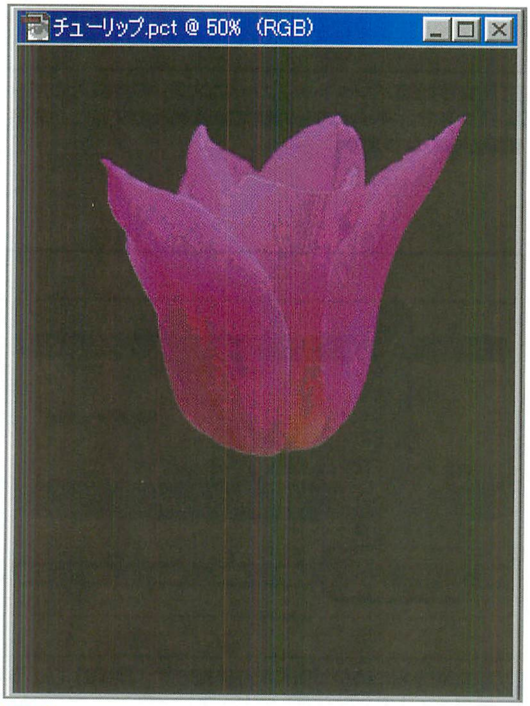
3 文字間隔の調整が済んだら完成です。「地図」というファイル名で保存をしておきましょう。

Friday
1 WEEK MASTER 5th DAY !!!

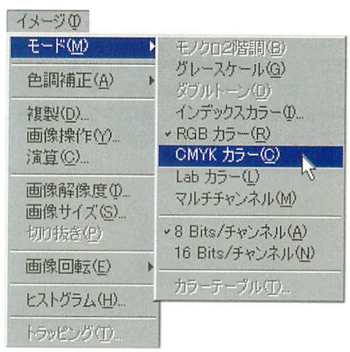
STEP 2 メインビジュアルを作る

写真の取り込み

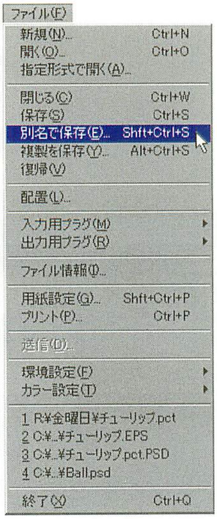
さて、昨日作成したちらしのフォーマットに、写真を入れてみます。初めに、Photoshopで Illustratorに取り込める状態にして、それから写真のためのレイヤーを用意して、「配置」コマンドを使って取り込みます。昨日作成したちらしのファイルを使いますので、開いておいてください。Photoshopをお持ちの方は図1〜5までの操作を行ってください。お持ちでない方は、特別付録CD-ROMから「チューリップ.EPS」を開き、図6から始めてください。



1 この写真をちらしに使います。Photoshopを起動して「ファイル」メニューの「開く」で、特別付録CD-ROMの金曜日フォルダにある「チューリップ.PCT」ファイルを開きます。



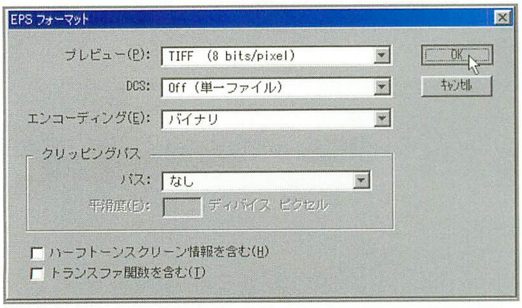
2 Illustratorに取り込むためCMYKに変換するので、「イメージ」メニューの「モード」から「CMYKカラー」を選択してください。



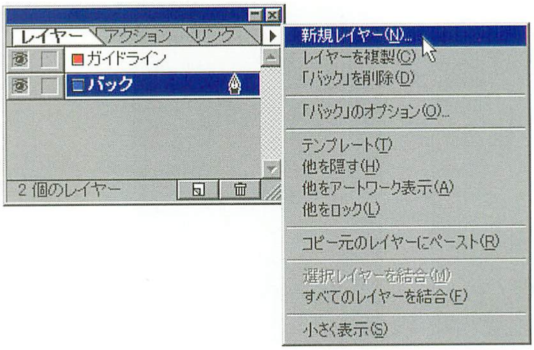
3「ファイル」メニューの「別名で保存」を実行します。



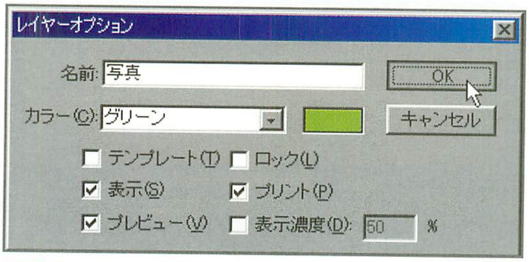
4 練習用フォルダに「チューリップ.EPS」という名前で保存します。ファイル形式は「Photoshop EPS」を選択します。



5「EPSフォーマット」ダイアログボックスでは、「プレビュー」を「TIFF(8bit/pixel)」に、「DCS」を「off(単一ファイル)」に、「エンコーディング」を「バイナリ」に設定します。



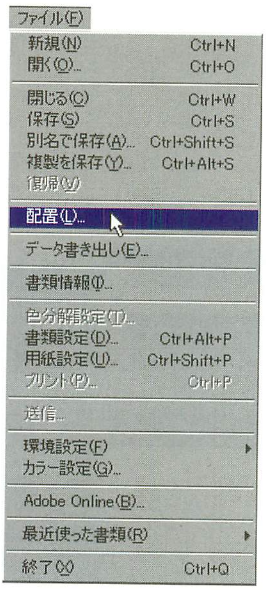
6 Illustratorに切り替えて、昨日作成したちらしのファイル「チラシ」を開きます。レイヤーパレットで「バック」レイヤーを選択してから、パレットメニューの「新規レイヤー」を選択します。



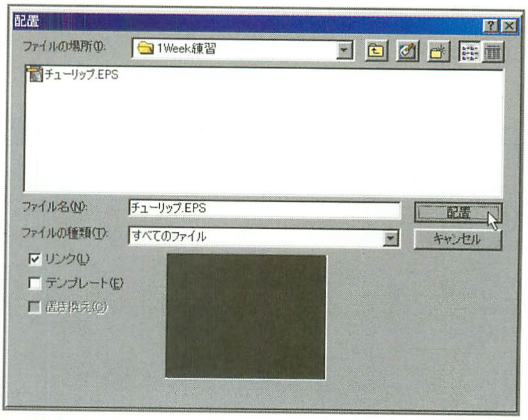
7 「レイヤーオプション」ダイアログボックスで新しいレイヤーに名前を着けます。「名前」は「写真」とします。



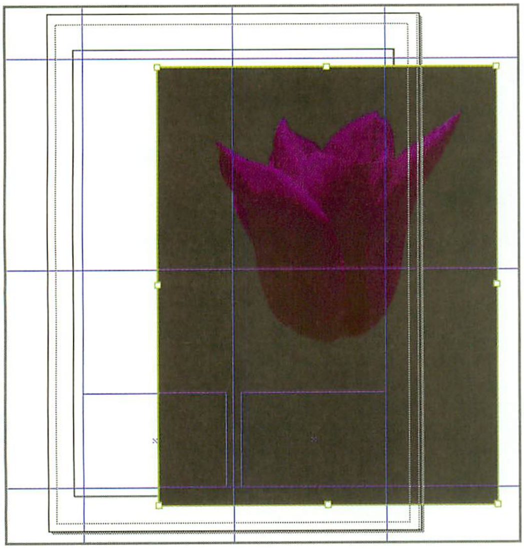
8 「バック」レイヤーの上に「写真」レイヤーができました。



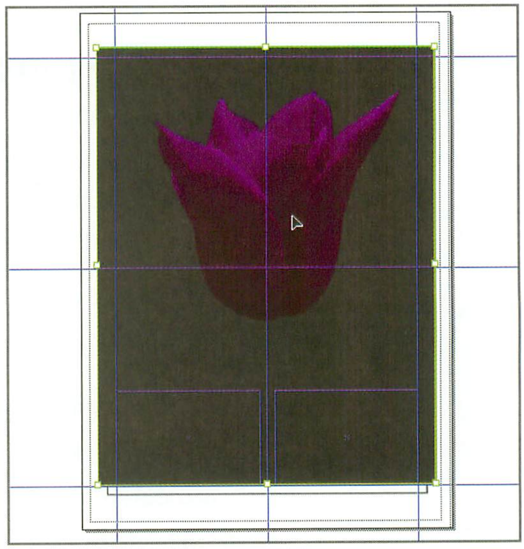
9 「ファイル」メニューから「配置」を選択します。



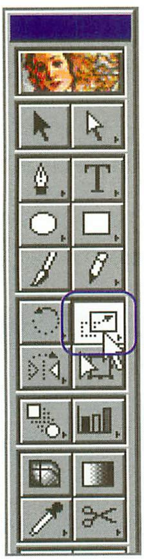
10 「練習用」フォルダにある、先ほど保存した「チューリップ.EPS」を選択し、「配置」ボタンをクリックします。



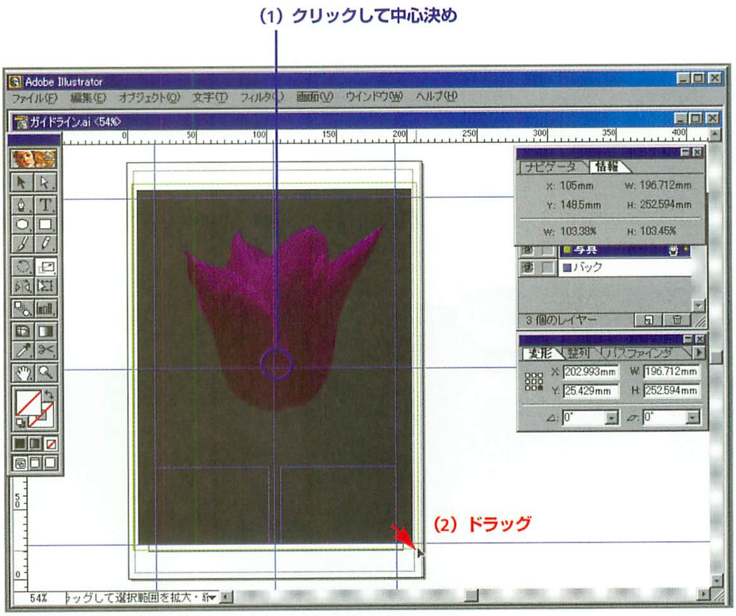
11 チューリップの画像が現れます。



12 選択ツールでドラッグして、ちらしの中央やや上の方へ持っていきます。データ容量がやや大きいので、少し時間がかかるかもしれませんが、ゆっくりドラッグしてみてください。



13 ツールボックスから拡大・縮小ツールを選択します。



14 写真をちらしの高さに合わせて拡大しましょう。まず写真の中心をクリックしてください。ここが拡大の中心になります。次に写真の角をつかんで外側にドラッグします。Shiftキーを押しながらドラッグすると、縦横の比率を変えずに拡大することができます。

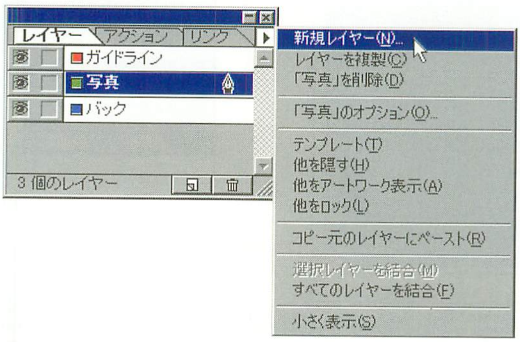
ブレンドの準備

Illustrator8.0になり、ブレンド機能が大幅に強化されました。「リアルブレンド」といって、ブレンド実行後でも、ブレンドした図形の位置や色を変更することが可能になりました。また、これまで2つのオブジェクトにしかブレンドをかけられませんでしたが、複数のオブジェクトに対してもブレンドを実行できるようになりました。

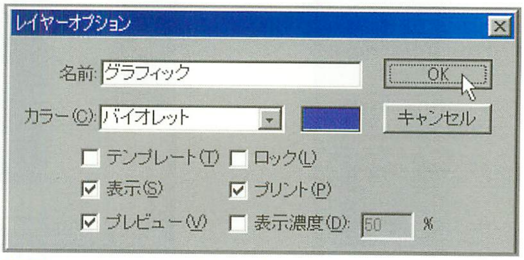
円を描く

写真の上に正円を描きます。あとで蝶のイラストを取り込んで、この円とのブレンドを実行します。

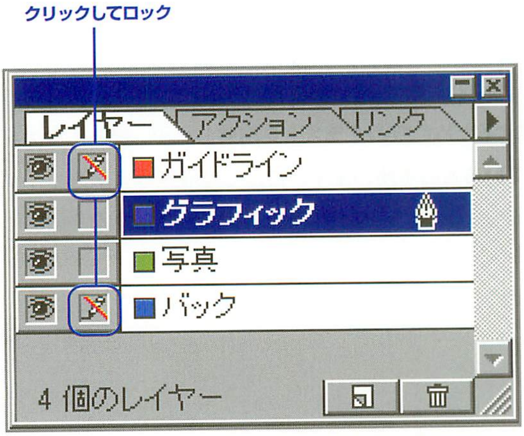
ここでは正円を「パスのアウトライン」で輪郭だけにするところがポイントです。これで輪郭部分だけを正円から蝶へ変形させることができるのです。



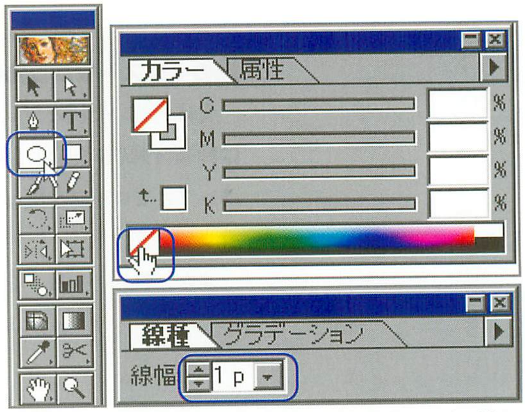
1 レイヤーパレットで「写真」レイヤーを選択した状態で、パレットメニューの「新規レイヤー」を選択します。



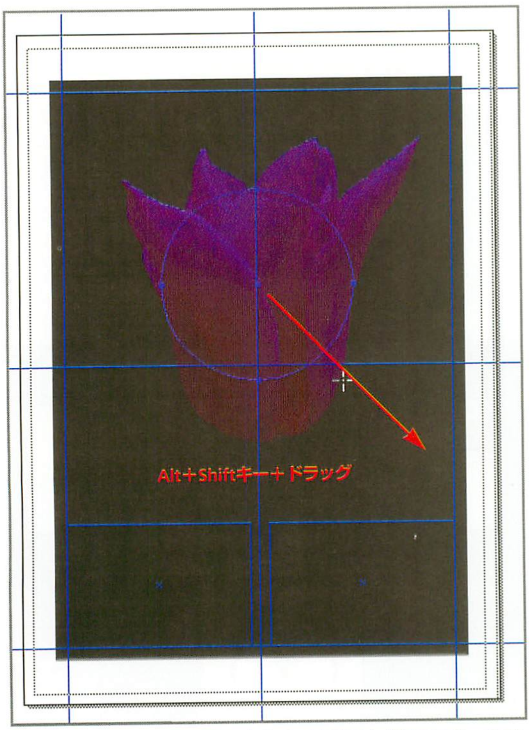
2 レイヤーの名前を付けましょう。これは「グラフィック」とします。



3 「写真」レイヤーの上に、新しく作った「グラフィック」レイヤーができました。「ガイドライン」レイヤーと「バック」レイヤーのオブジェクトを動かしてしまわないように、ロックして鉛筆マークを出しておきましょう。



4 ツールボックスから楕円形ツールを選択します。塗りは「なし」、線は「白」を設定します。線幅は「1pt」にしてください。



5 チューリップの花の中心から正円を描きます。中心から円を描くにはAltキー、正円を描くにはShiftキーを押しながらドラッグ、です。

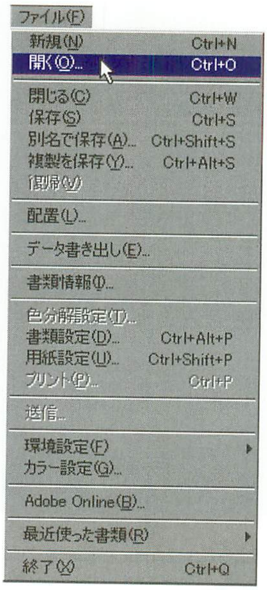


6 描いた正円がチューリップの花の部分を覆うように、選択ツールで位置やサイズを調整します。

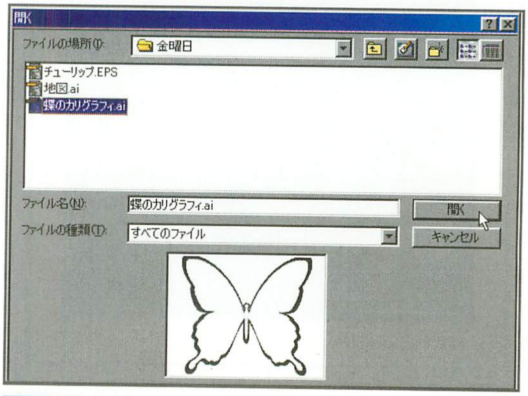
蝶のイラストを取り込む

先ほど描いた円とブレンドするための蝶のイラストを用意します。蝶のイラストは特別付録CD-ROMに入っているものを使います。ここでは取込み方法としてドラッグ＆ドロップを使って、チューリップの写真の上に蝶のイラストを取り込んでみましょう。

また、整列パレットを使って、複数の図形の位置を整える練習も行います。



1 「ファイル」メニューから「開く」を選択します。

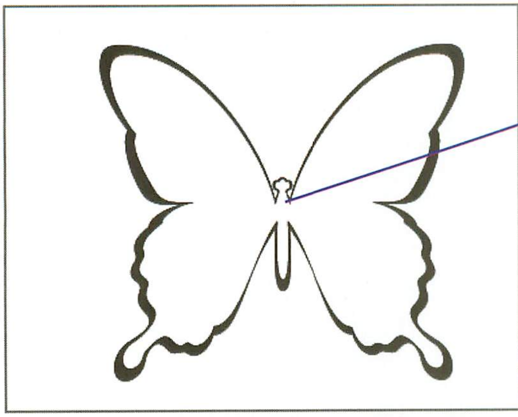


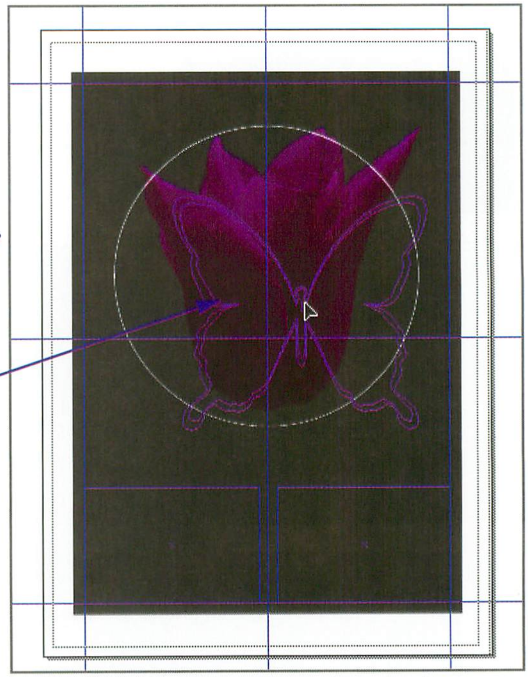
2 特別付録CD-ROMの「金曜日」フォルダより「蝶のカリグラフィ.ai」を選択して開きます。

☞ヒント!!

簡単にデータを取り込む方法

コピー＆ペーストする方法もありますが、一番簡単なデータの持っていき方は、ドラッグ＆ドロップです。Illustratorのファイル同士ならもちろん、Photoshopとの間でもドラッグ＆ドロップは可能です。



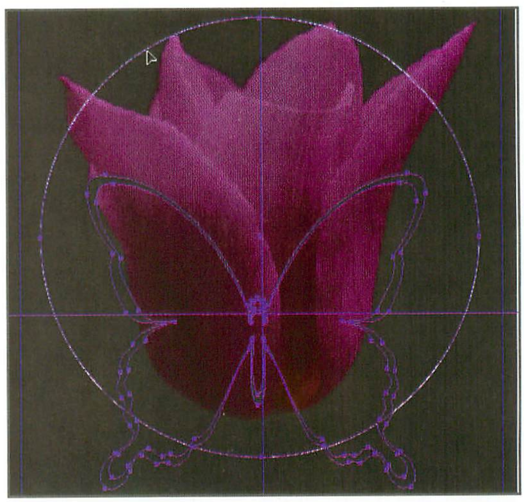


3 「蝶のカリグラフィ」を開いたところです。選択ツールで蝶全体を選び、ちらしの画面へドラッグ＆ドロップで持っていきます。

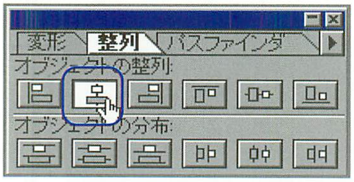
4 ちらしのチューリップの上に蝶が入ります。

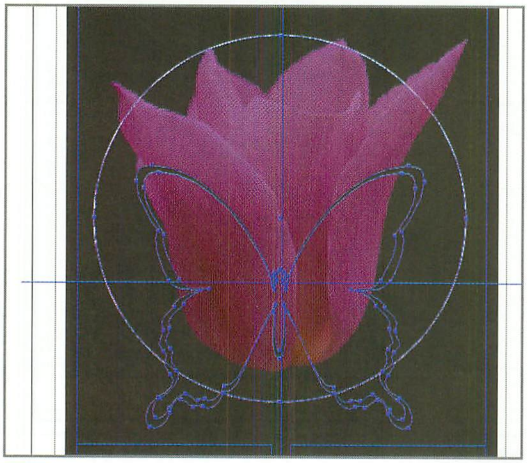


5 チューリップは今は使いませんので、レイヤーパレットで「写真」レイヤーをロックしておきましょう。

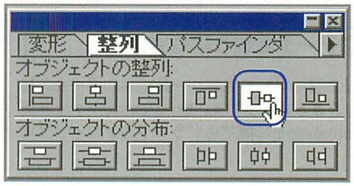


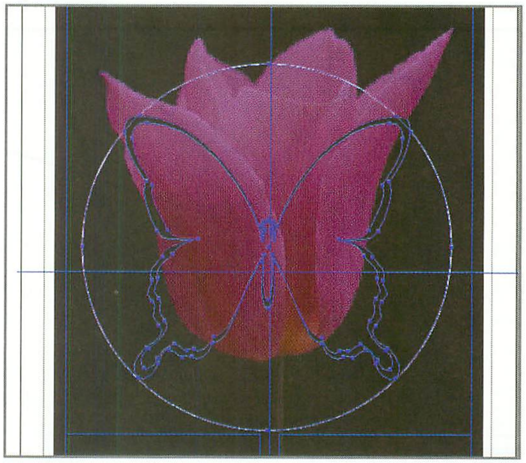
6 選択ツールで、チューリップの上に描いた円と「蝶のカリグラフィ」を両方とも選択してください。「写真」レイヤーをロックしているので、ドラッグして囲んでもチューリップを選ぶ心配はありません。



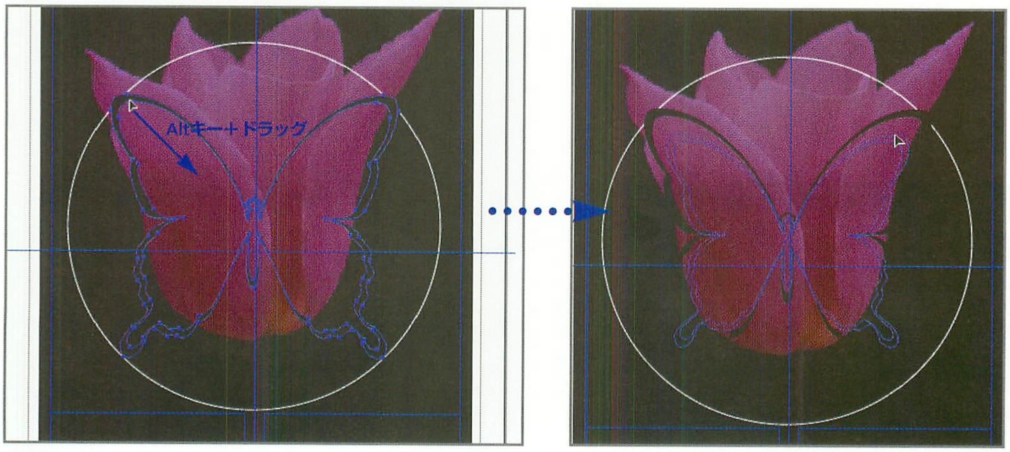


7 整列パレットで「オブジェクトの整列」から「縦に中心で整列」を選択します。これで「蝶のカリグラフィ」と円の縦の中心線とが合いました。





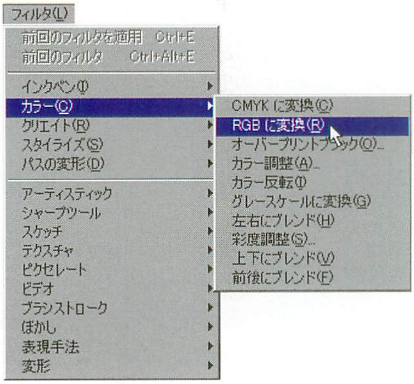
8 さらに整列パレットで「オブジェクトの整列」から「横に中心で整列」を選択します。これでチューリップの上に描いた円の中心に「蝶のカリグラフィ」が配置されました。



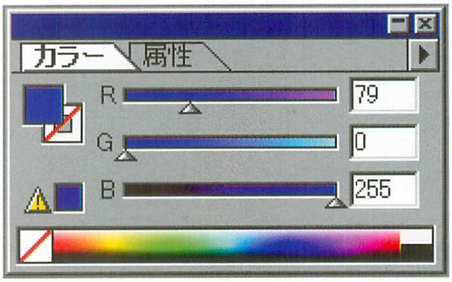
9 選択ツールで蝶を選びます。バウンディングボックスが表示されますので、Altキーを押しながらハンドルをドラッグして、中心へ向かって蝶を縮小してください。Altキーを押さないと、先ほど整列させた中心がずれてしまいますから気をつけてください。

色や図形を調整しておく

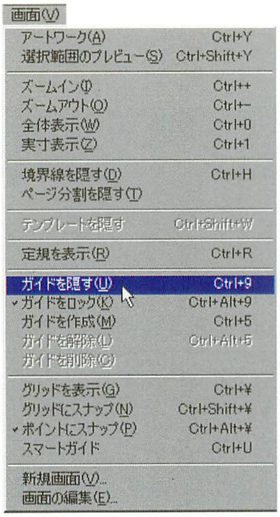
ここではカラーモードをRGBにしてブレンドを実行してみます。カラーモードの切り替え方を覚えてください。また、ブレンドは線同士または図形同士であることが必要です。「パスのアウトライン」という機能を使って、線を図形に変換しておきます。



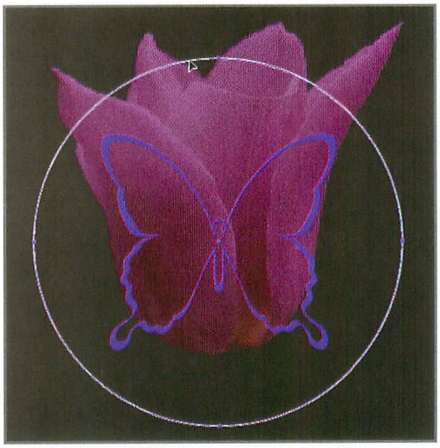
1 選択ツールで蝶を選び、「フィルタ」メニューの「カラー」から「RGBに変換」を選択します。



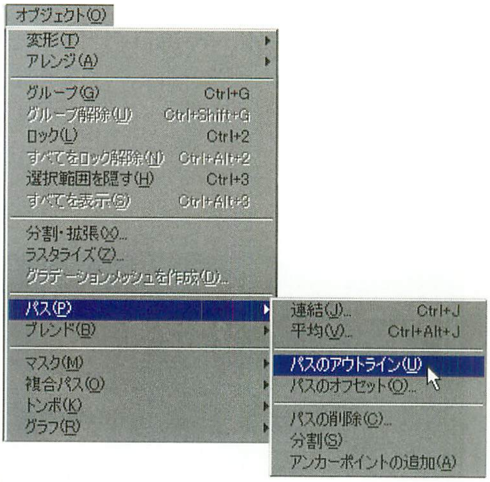
2 蝶のグラフィックを選んで、塗りに適当な色をつけます。ここではR「79%」、B「255%」にしました。



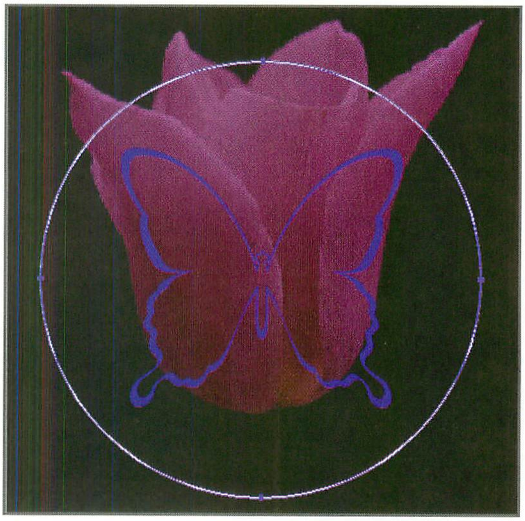
3 ガイドラインがじゃまなときは、「画面」メニューから「ガイドを隠す」を選び、チェックを外してください。



4 では「パスのアウトライン」で正円を図形に変えてみましょう。まず選択ツールで正円を選んでください。



5 「オブジェクト」メニューの「パス」から「パスのアウトライン」を選択します。

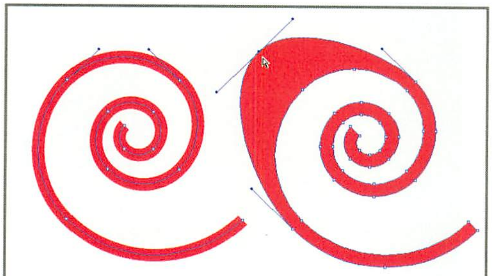


6 細いのでちょっとわかりにくいかもしれませんが、これで正円がアウトライン化されました。

☞ヒント!!

どうして正円をアウトラインにするの？

正円と蝶をブレンドする際に一方が図形でもう一方が線だと、うまくブレンドすることができません。蝶のイラストは図形ですので、ブレンドする正円も図形にする必要があるのです。「パスのアウトライン」は線を図形に変換するコマンドです。



▲「パスのアウトライン」を実行すると図形になるので、形を自由に変えることが可能。実行前(左)と実行後(右)。

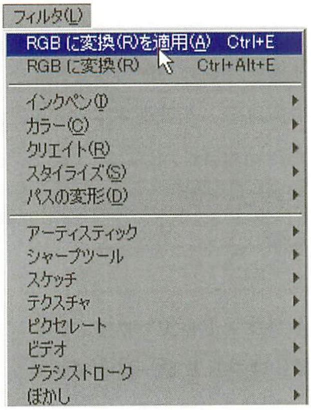


7 選択ツールで、図形になった正円を選択します。

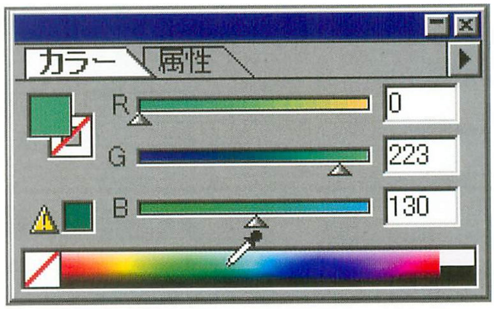
☞ヒント!!

「フィルタ」メニューの一番上のコマンドは？

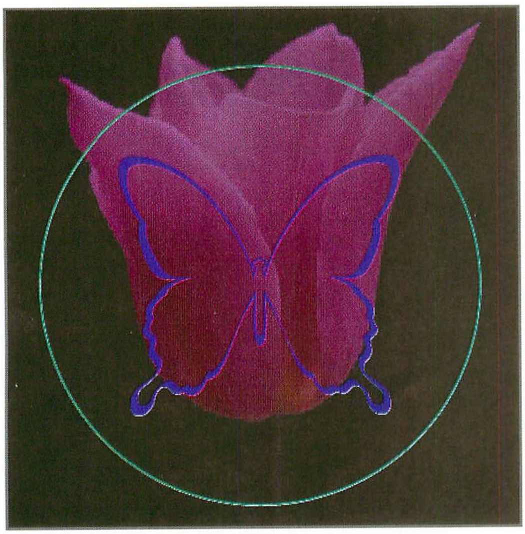
「フィルタ」メニューの一番上の項目には、最後に使ったフィルタのコマンドが登録されます。同じフィルタを連続して使うときに便利です。



8 「フィルタ」メニューから「RGBに変換を適用」を選択し、同じくRGBにしておきます。



9 カラーパレットで塗りの色をスポイトで選択します。ここではRGBモードでG「223%」、B「130%」の緑色にしていますが、適当な緑で結構です。カラーモードの変更のしかたは161ページで解説しましたね。



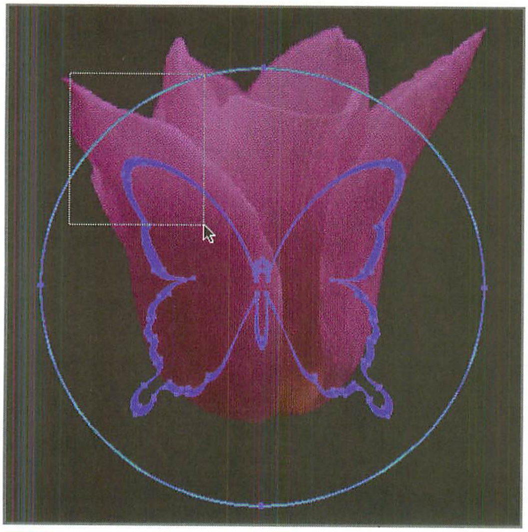
10 外側の正円の枠線に色がつきました。

ブレンド実行

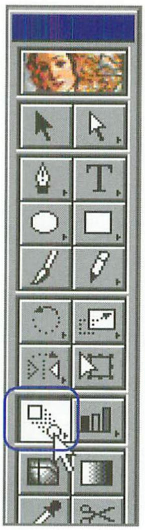
さあ、いよいよビジュアル作成のメインの操作です。正円と蝶のイラストをブレンドしてみましょう。ここではブレンドのステップ数の変更方法などをしっかり覚えてください。

ブレンドを使う場合は、まず、ブレンドツールで2つの図形のポイント上をクリックします。すると、そのポイント間を基準にブレンドが実行されます。以前のバージョンまでは、最初にステップ数などを指定し、一旦指定するとあとからステップ数を変えることはできませんでした。Illustrator8.0からは、「オブジェクト」メニューに「ブレンド」というブレンドのためのコマンドが用意され、そこでブレンドをコントロールできるようになっています。ステップ数などは「ブレンドオプション」ダイアログボックスで編集します。

また、ブレンドを解除するには「解除」コマンドを使います。ブレンドで作られたオブジェクトを個別に扱うには、「拡張」コマンドで一旦オブジェクトをばらばらの状態にします。新しくなったブレンド機能をどうぞ楽しんでください。



1 選択ツールで、外側の正円と蝶を選択します。チューリップが配置されている「写真」レイヤーをロックしてあるので、ドラッグしてもチューリップを選んでしまうことはありません。

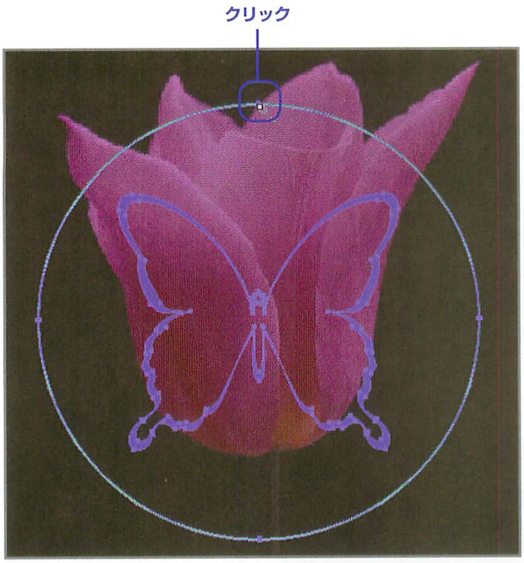


2 ツールボックスからブレンドツールを選択します。

☞新機能!!

ブレンドツールは選択していない図形にも使用できる

ブレンドツールで2つの図形のポイントをクリックする場合、以前のバージョンでは、その図形が選択されていないとブレンドツールは使えませんでしたが、8.0からは、選択しなくてもブレンドできるようになりました。ポイントの上にマウスが重なると、ポインタが変わるので作業しやすくなっています。ただ、ここでは正確にポイントをクリックしたいので、あらかじめ選択してポイントを表示させておきます。



3 ブレンドツールで、正円の上の頂点にあるポイントを選択します。ポインタの上にマウスが重なると、×マークが出てきますので、その状態でクリックしてください。



4 次に、蝶の頭の上（？）のポイントをクリックします。ポインタの上にマウスが重なると、＋マークが出てきますので、その状態でクリックしてください。

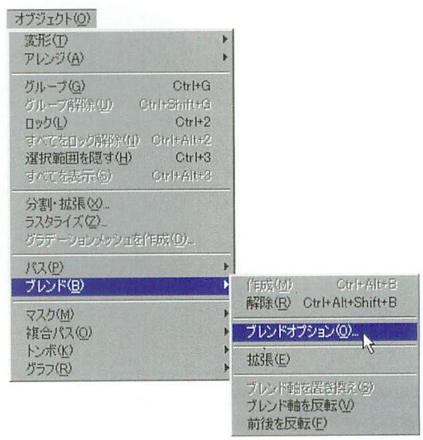


5 正円と蝶がブレンドされました。でも、ブレンドのステップ数が多すぎて、何がなんだかわからないので、ステップ数を少なくしてみましょう。

☞ヒント!!

ブレンドオプションを出す別の方法

「オブジェクト」メニューの「ブレンド」から「ブレンドオプション」を選ぶ代わりに、ブレンドした図形が選択されている状態で、ブレンドツールをダブルクリックしても、同じダイアログボックスを出すことができます。



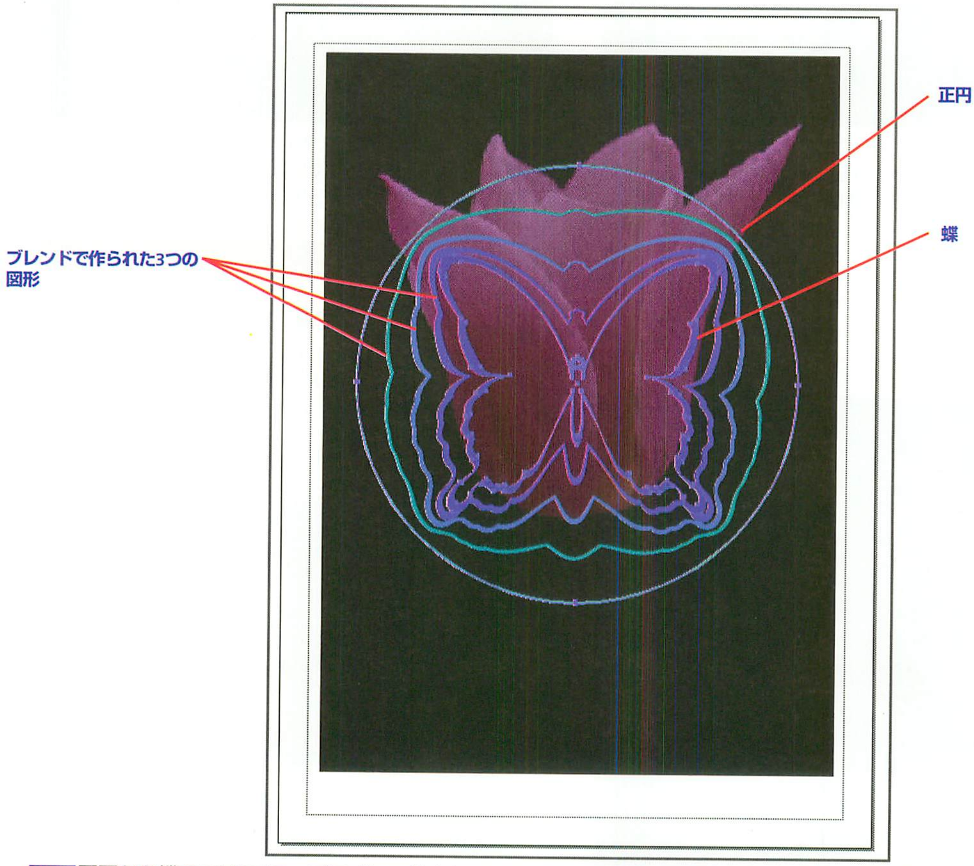
6 「オブジェクト」メニューの「ブレンド」から「ブレンドオプション」を選択します。



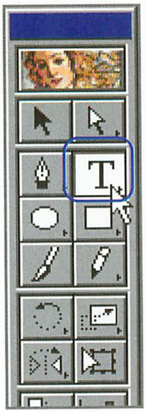
7 「ブレンドオプション」ダイアログボックスが出てきます。「間隔」をプレスして「ステップ数」を選びます。



8 「ステップ数」は「3」と入れてください。「プレビュー」にチェックを入れておくと、画面上で結果を表示してくれます。



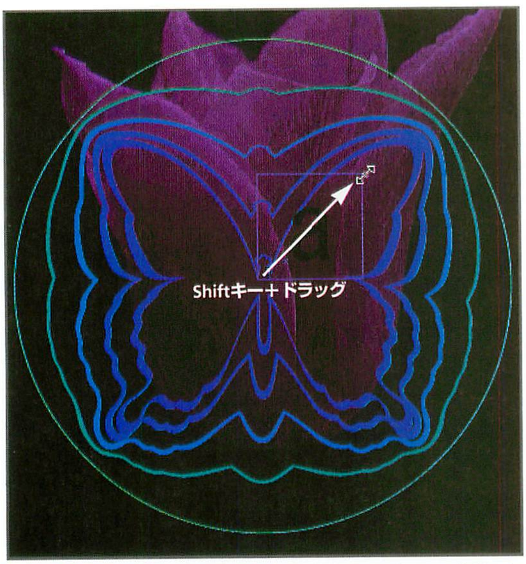
9 正円から蝶までが3ステップでブレンドされました。色と形が円から蝶にだんだん変わっているのがわかりますか？



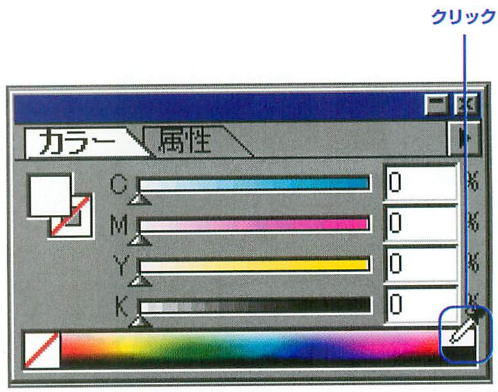
10 ツールボックスで文字ツールを選択します。



11 蝶の中心をクリックし、「a」と入力します。



12 文字を選択ツールで選びます。バウンディングボックスが表示されますから、角のハンドルをドラッグして文字を大きくしてください。Shiftキーを押しながらドラッグしてくださいね。そうしないと縦横の比率が変わってしまいますから。



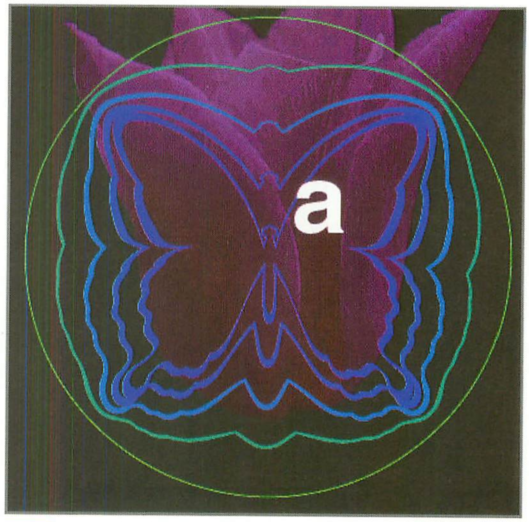
13 カラーパレットで文字の線を「なし」に、塗りを「白」にします。

☞アウトラインフォント

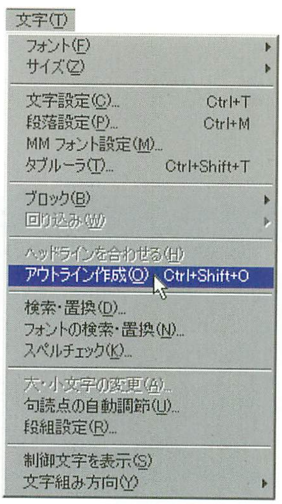
TrueTypeフォントやポストスクリプトフォントなど、拡大しても輪郭が粗くならないフォントのことです。



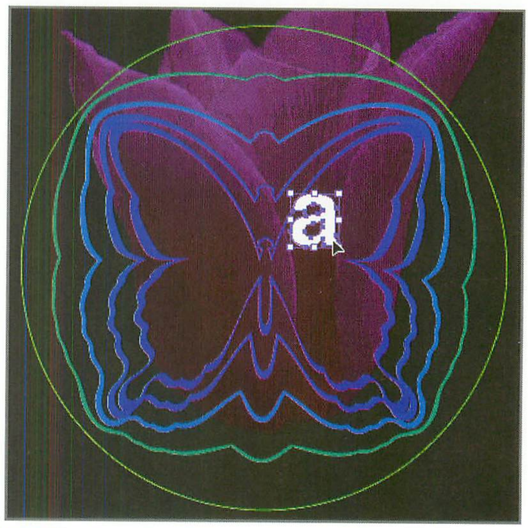
14「文字」メニューを使って「フォント」を変更します。「Helvetica」の「Bold」にしましょう。お手持ちのフォントで代用して結構ですが、アウトラインフォントを使用するようにしてください。



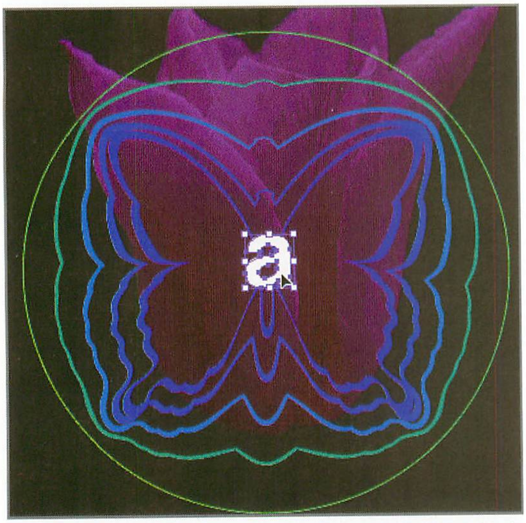
15 フォントが変更されました。この後、アウトラインに変換します。一旦アウトラインにするとフォントの変更などはできませんから、今のうちに十分検討してみてください。



16 文字が選択されているのを確認して、「文字」メニューの「アウトライン作成」を選択します。



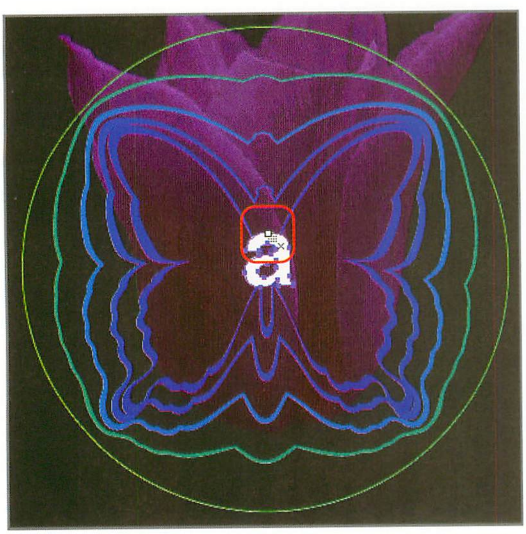
17「a」の文字がアウトライン化されました。



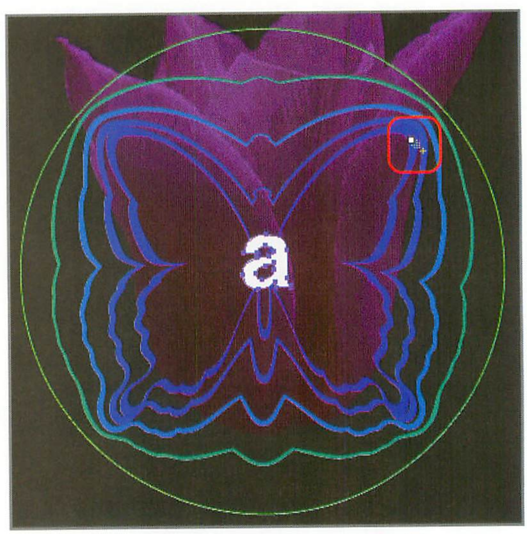
18 選択ツールでドラッグして、「a」の文字を正円の中心に持ってきます。



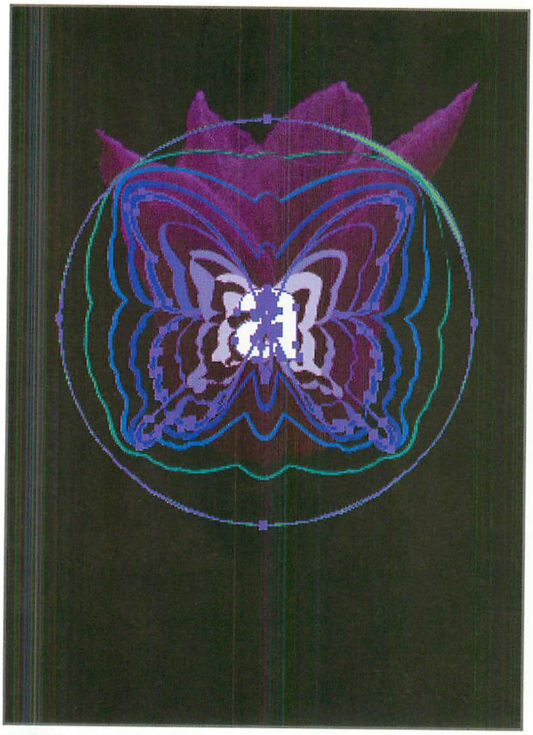
19 ツールボックスからブレンドツールを選択します。



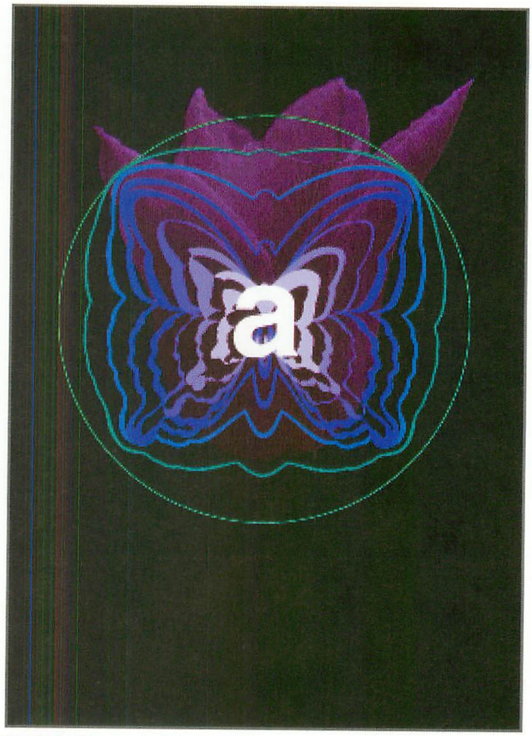
20 「a」の文字のてっぺんのポイントをクリックします。ブレンドツールのポインタに×マークが出ている状態でクリックですよ。



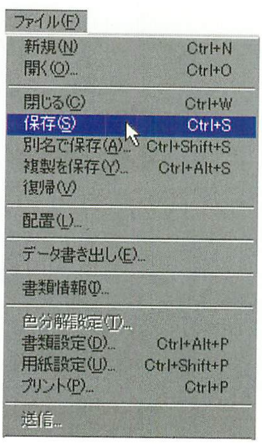
21 続いて、「蝶のカリグラフィー」（一番内側）の右上のポイントをクリックします。ポインタの上にマウスが重なると、＋マークが出てきますので、その状態でクリックしてください。



22「a」の文字と蝶が、ブレンドされました。これも「ブレンドオプション」ダイアログボックスの「ステップ数」は3にしています。



23選択ツールで余白をクリックし、選択を解除します。メインビジュアルが完成しました。今日はこれで終わります。ちょっと手順が長かったですが、うまくいきましたか？



24「ファイル」メニューの「保存」で上書き保存をして、今日の作業は終わりにしましょう。明日は地図を配置して、文字を中心にレイアウトを仕上げていきます。